

# 文書起案の手びき

海外技術協力事業団

総務部総務課

JICA LIBRARY



1013295[9]

国際協力事業団

受入  
月日 84.9.13

0000

443

登録No. 15024

KA

## はじめに

この手びき書は、文部省発行の「公用文の書き方」および産業能率短期大学主催の「ビジネスマンのための文書技術コース」の講習会のテキストブックを参考として、当事業団用として作成したものであります。

昭和44年6月

総務部 総務課

# 目 次

まえがき	
1. 文書とは	1
2. 起案とは	1
§ I 起 案	
1. 起案にあたっての注意	2
2. 文章の構成	2
2.1 前文について	2
2.2 主文について	2
2.3 末文について	2
§ II 文体について	
1. 文体について	4
1.1 用いてもよい文語体	4
1.2 注意すべきこと	4
§ III 用語用字	
1. 用語用字について	6
1.1 一般的な心構えについて	6
1.2 特に注意すべき用語用字について	6
§ IV 書式文例	
1. 文書(往復文)の構成	9
2. 文 例	12
3. 本文(文案)の書き方	12
3.1 研修を依頼する文案例	15
3.2 専門家の推せん方依頼の照会文案例	16
3.3 回答文案例	18
3.4 書き方の注意	12
3.5 諸注意事項	13
3.6 同 上	13
3.7 同 上	13
3.8 同 上	13
3.9 電信について	13

§Ⅶ その他	14
1. 文書の折り方	14
2. 名宛の書き方	14

## 付 録

送りがなのつけ方用例集

語の言いかえ書きかえ

内閣法制局「法令用改正要領」

五十音順用字用語例

同音の漢字による書きかえ

## ま え が き

### 1. 文書とは

一般に文書といった場合の概念は、文字または、これに代わる符号を用いて、一定の意志を、ある物体の上に永続すべき状態で表示したものをいい、意志表示のための用具である。

海外技術協力事業団の文書とは、文書取扱規程第2条に、「事務の運用に必要な書類であって、事業団から送達される書類、事業団内において決裁又は供覧を得るため、この規程の定めるところにより作成される書類及び決裁に基づいて送達される書類のすべてをいう」と規定されている。

### 2. 起案とは

ある事案について、その基となる案文を決裁を得るため、または供覧（検覧）を得るために作ることである。

## § 1 起 案

### 1. 起案にあたっての注意

文書は、ある案件についての意志を他人に伝達する役目をなすものであるから、その内容は正確かつ簡潔に要件を表現することが必要である。

これためには、案件についての資料のしゅう集・関係法規の調査、来簡書類の精読、関係者との事前打合せ、または上司の指示を仰ぐ等あらかじめ万全の準備が必要である。

### 2. 文章の構成

文章の構成は、前文・主文・末文によって構成されるのが普通であるが、内容によっては、前文と主文、または、主文と末文というように、必ずしも態形にとらわれる必要はない。要すれば簡潔にして、その目的の意味が十分に相手に通ずればよい。

#### 2.1 前文について

前文は、主文の経過、または、その状況を述べて主文がなぜ書かれるかについての理由を説明するものであるから、あまりくどく書くことはよくないし、必要のないものは書かなくともよい。

前文に相当長い説明を要する文章にあっては、参考となるべき資料を添付して、それを引用しあるいはその案件のバックグラウンドを簡略に末尾に付記した方がよい。

#### 2.2 主文について

主文は、文字どおり文章の本体であり、文章を書く目的であるから、その主旨を強調して相手に十分理解できるように書かなければならない。したがって、いくつかの案件が重なるような場合は、本文中に書くより、箇条書きにした方がよい。また、案件は卒直に真実を、しかも簡潔に書かなければならないから、いたずらに形式的な用語をならべたり、趣旨の焦点がぼけ、意味の把握が困難のような書き方はさけなければならない。

#### 2.3 末文(おって書き)について

末文は、おもに主文の補足的説明に用いられ、その処理方法および手続等を知らせる役割をもっているものであるから、文書によっては必要としない。



しかしながら、「おって」「なお」等の、「おって書き」は主文に書きおとしたことを、つけ加えて書くのが本来の形であるが公文書の場合は、こうした書き方が通常多く用いられている。しかし、文書の形式としては、あまり好ましい書き方ではない場合が多い。

## § II 文体について

### 1. 文体について

文体は、口語体をもって書くことに定められているが、ひとしく口語体といっても、「である」体と「ます」体と2種類がある。法律、省令、訓令や官公庁の公文書等は「である」体を用いているが、当事業団は政府関係機関ながら、従来の慣例から「ます」体を用いている。ただし、決裁を得るための文書で外部に送達する必要のない文書、または、外部に発送する往復文書であっても「同」の説明文は「である」体でよい。

#### 1.1 用いてもよい文語体

文語体は、用いないことになっているが、例外として、次の場合は用いてもよいという基準がある。これは口語の表現を用いると、文が冗長になり、また調子が悪いため、文語で表現した方が便利である理由からである。

用いてもよい語	文語の場合	口語の場合
べき	すべきである	しなければならない
たる	監督官庁たる外務省	監督官庁である外務省
ぬ	つまらぬ問題	つまらない問題
いかなる	いかなる	どんな

また、簡単な表などでは「あり」、「なし」等是用いてもよいが「べく・べし」は用いてはならないことになっている。

#### 1.2. 注意すべきこと

- (1) 口語体は「話しことば」だから、そのままを書けばよいというわけではない。やはり洗練された標準語で書かなければならない。
- (2) 文章の調子は一貫して書かなければならない。最初のうちは「である」体で書いていて、最後には「お願い申し上げます」と「ます」体と混同されている文書を、よくみかけるが注意を要することである。
- (3) 敬語については、往復文の場合などの対人関係のものは、相手に応じて礼を失しない程度に用いるのがよいと思われるが、「御

（おん）」「御（ご）」または、「ございます」等は、相手が官公庁（または、これに準ずる機関）の場合は用いる必要はない。なぜならば文章には階級がないからである。したがって、監督官庁たる外務省宛のものでも、同じ考え方でよいが、一方研修を依頼する民間会社、あるいは、専門家等の推せんを依頼する文書等は社会常識に従って礼を失しないように心がけることが必要であろう。

## § Ⅱ 用 語 用 字

### 1. 用語用字について

公文書は、やさしく、わかりやすく書くという趣旨から、用語用字については、じゅうぶん注意して書く必要がある。

用語用字は、当用漢字表、当用漢字音訓表、当用漢字字体表、現代かなづかい、送りかなのつけ方を用いることになっている。

このことについては、すでに習得されていなくてはならぬが、なお参考のため特に文章起草にあつて、常に当面する一般的に注意を要する用語用字例、および注意すべきこと等について記す。

#### 1.1 一般的な心構えについて

- (1) できるだけ日用語を用いること。やむを得ない場合のほか、むずかしいことばや専門用語はさける。
- (2) 漢字、又はかなづかいは上述のような制限された字を用いることになっているが、この字によって書き表わせないものは、そのことば全体を、かな書きにする。もし、かな書きにすると意味を誤解されるおそれのあるものは、意味の近いことばに言いかえる。
- (3) 必要以上に外国語や特殊な術語は用いない。

#### 1.2 特に注意すべき用語用字について

##### (1) 「御」

「御」は、「ぎよ、お、おん、ご」などの読み方があるが、音訓表では「ご、おん」は認められているが、「ぎよ、お」は認められていないので、用いられない。

「御礼」を「おんれい」と発音させる場合ならよいが、「おれい」と発音させる場合は「おれ」と書く。また、「御願いたします」は「お願いたします。」と書く。

##### (2) 「以上」「以下」「未満」

「以上」と「以下」は、その付属する数字などを含むけれども「未満」はそれを含まない。

##### (3) 「所」「ところ」

「所」は、具体的に場所を示す名詞として用いるが、「ところ」は、抽象的なところ、理由、原因を示す場合に用いる。

「家を建てる所を探す。」「照会したところ、回答があった。」

##### (4) 「物」「者」「もの」

「物」は、有体物について用い、「者」は人間について、また「もの」は、「抽象的なもの」と「者と物を含むもの」について用いる。

「所持する物」「指名された者の名簿」「かかる理由に基づくものである。」

(5) 「こと」「事」

「こと」は主として抽象的な内容を、「事」は、具体的な事からを表わすときに用いる。

「見ることが出来る。」「目下研究している事を発表する。」「事がら」

(6) 「とき」「時」

「とき」は、条件・原因・理由その他広く「場合」という語と同じような意味のときに用いる。

「法令に別段の定があるときは、この限りでない。」

「時」は、時期・時刻の趣旨をはっきりさせるときに用いる。

「出発の時は、また知らせます。」「実施の時から効力を発生する。」

(7) 「から」「より」

「から」は、時と所との起点を示すときに用い、「より」は、比較の基準を示すものとして用いる。

「午後2時から会議を開催します。」「何月何日から何日まで出張します。」「理事長から訓辞があった。」「名古屋より速くへ行く列車に乗りなさい。」「この値段より安くすることはできない。」

(8) 「および」「ならびに」「または」「もしくは」

「および、ならびに、または、もしくは」を、併用する使い方。「AおよびB」「ならびに」「BおよびC」。「A、B、CおよびD」「Aもしくはa」または「Bもしくはb」

(注：法律用語としては、「及び」「並びに」「又は」「若しくは」は漢字が用いられているが、一般では「かな書き」が使用されている。)

「および」「ならびに」は、意味はほぼ同じであるが、単一に用いるときは「および」を用い、並列される語句のある複雑な文章にあっては、大きな意味の併合的連結には「ならびに」が用い

られ、小さな意味の併合的連結には「および」が用いられる。

「または」「もしくは」は意味はほぼ等しいが、単一に用いるときは「または」を用い、選択される語句に段階があるときは、大きい選択的連結には「または」を用い、小さい選択的連結には「もしくは」を用いる。(法律用語辞典による)

(9) 「改正する」「改める」

「改正する」は、全体を改める。「改める」は、部分を改める。

(10) 「直ちに」「すみやかに」「遅滞なく」

「直ちに」は、即刻。「すみやか」は、なるべく早く。「遅滞なく」は、事情の許すかぎり早く。

(11) 要望の度合いの差の表現

イ、しなければならない＝絶対にせよ。

ロ、するものとする＝やむを得ない事情のないかぎりする。

ハ、することを原則とする＝しいてしなくもよい。

ニ、外国語で適当な語訳のないものは、かたかなで表わす。

サイクロトン・キャビテーション、etc ………。

(12) 数の書き表わし方について

イ、左横書きの文書では、算用数字(アラビア数字)を用いることを原則とする。数のけたのくぎりについては、三けたごとにコンマ(,)を用いる。

ロ、次の場合には漢字を用いる。

ハ、固有名詞

「研修第一課」「五日市町」等……………。

ニ、数の感じのない場合

「一般」、「一部(一部分の意)」、「一時保留する。」等。

ホ、「ひとつ」「ふたつ」「みっつ」

などと結ぶ場合

「一つずつ」、「二日続きの休み」、「三月毎にまとめて報告する。」等……………。

ヘ、万以上の数を表わすときの単位として、最後にのみ用いる場合。

「1,000万」、「10.0億」等……………。

ト、概数を示す場合

「数十日」、「四、五人」、「五、六十万円」等……………。

§IV 書式・文例

I 書 式

(1) 文書(往復文)の構成

まず、起案者は、往復文書(部外に送達される文書)は、どんな構成であるかを、あらかじめ頭の中に入れておく必要があると思われるから、その一般的スタイルを示し(Fig.1)、番号順に簡単な説明を加えることにする。

(Fig.1)

	① 文書番号	
	② 日 付	「注」
③ 受信者名	④ 発信者名 印	頭語と結語
⑤ 件 名		拜啓 } 敬具
		拜復 } 敬具
⑥ (頭語).....		前略-草々
.....前文.....		頭語がないときの結語
.....。		は、以上、了、終り、
⑦ .....主文.....		などがあるが、一般の
.....。		公文書では、頭語も結
⑧ .....末文.....		語もつけないのが普通
	(結語)	である。しかし、外務
	記	省公電の訳文には必ず
1. ....		「了」の結語が付され
2. ....		ている。
⑨ おって、.....		
⑩ 添付物(同封物).....		
⑪ 写送付先.....		

- ① 文書番号：公文書には必ず文書番号を入れる。

例：海技協（総）第1-15号

この番号は、決裁になった文書を発送する前に、総務課にて文書件名簿に登録した番号で、浄書（タイプ）する前に記入する。

- ② 日付：昭和〇〇年〇月〇日

この日付は文書件名簿に登録した日付で、決裁になった日、発送した日とは、一致していない。

- ③ 受信者名：文書の受信者

公文書の受信者名（あて先）は私文書（手紙）などと異なり、ほとんどがその機関の長、もしくは部局長のごとく、その機関の責任者にあてることになっている。

次に受信者（あて先）と敬称の関係

あて名	敬称	例
団体あて	御 中	海外技術協力事業団御中
職名・個人名をつけた職名 多数（同文のとき）	殿、様 各 位	人事課長殿、加藤人事課長様 組合員各位
個人（氏名を記したとき）	様殿先生	鈴木正様、長沢正先生

「注」最近の傾向としては、御中を殿または様と統一して用いられている例が多く、機関あて、もしくは機関の長あてでも、殿または様を用いている会社が多い。また官公庁や団体等の機関あてのものは、敬称などいらぬという説もあるが、公文書には殿、御中、個人の手紙では、様または先生などの敬称をつけることが、礼儀である。

- ④ 発信者名：文書を発信する者。

受信者名と同じく、ほとんどが、機関の長または、部局（室）の長（責任者）の名において発信されることになっている。

ただし、受信者との関連において、受信者と同格者名（受信者が部長なら、発信者も部長名とする）とすることが通例となっている。また、受信者が職名のみの場合、発信者名も職名のみとし、受信者の職名に氏名を付した場合は、発信者名にも職名に氏名を付すことが、一般の慣例になっている。



例：受信者名 何々公団総務部長  
発信者名 海外技術協力事業団総務部長  
受信者名 何々公団  
          総務部長 石橋岩吉  
発信者名 海外技術協力事業団  
          総務部長 田中秀穂

ただし、ある省庁によっては、局長あてに部長名で発信したところ、理事名でよさすべきだと、注意をうけた事例もある。従ってその時に応じてとくに相手が中央官庁の場合、局長以上あての場合は理事長名で発信するような配慮も必要である。

また、発信人名を理事長何某と氏名を入れたため、受信人にも職名に氏名を付して発信したのに対し、何々局長は転任になり、現職者と氏名が違っているから受取れぬと戻された例もある。こうした点にも細心の注意が必要である。

公印について、文書が横書きになったので、各省庁では公印まで横書きに改めたところが多いが、当事業団の公印（代表者印）は商法の規定により登記されているので、あえて横書きに改める必要は認められない。部（室）長名で発信する場合は事業団の副印と部（室）長印を押捺することになっている。

⑤ 件 名

件名は、文書の主たる要件を一目でわからせるためのタイトルであるから、簡潔にしかも要を得て書くべきである。ずいぶん長いものを時折みかけるがこれはよろしくない。

⑥ 前文： 主文の経過または、その状況を述べる文節である。（前述の文章の構成参照）

頭語： 拜啓、謹啓、拜復、前略、冠省のようなことばで、この頭語を用いた場合は、必ず「結語」の敬具、敬白、草々、匆々などの語を付けなければならない。この結語を付けることは往々にして忘れがちになるから、注意を要する。

⑦ 主文： 前述の文章の構成参照。

⑧ 末文： 同 上

⑨ おって：同 上

⑩ 添付物……： これは、この文書には本紙のほかに参考資料等が添えて（同封）あることを示すときに用いる。

- ④ 写送付先……：本信は主要用件のある機関に送達することは、勿論であるが、その用件に関係のある機関に本信の写を送付することである。このことは、事務処理を非常に円滑に能率をあげることができるから必要である。

例：研修員の研修を依頼するような場合、中央官庁に依頼するが、その研修先がその官庁の下部組織または、付属機関である場合は、本信の写を実際に研修する機関あてに送付して、写送付先どこそこと、付記しておく。

## II 文 例

1. 決裁文書のカバーリング（「かがみ」ともいう）の書き方（Fig. 2. 研修を依頼する文案）。

ただし、発送を要しないで決裁を得るのみのものについては、受信者、発信者名の記載は要さない。上記のことについて「別紙伺または、下伺」のように「実施して…」または、「取計らってよろしいか」。というように記入し、別紙の上欄に「伺」と書き次段より、その要件を書く。

次に、合議（あいぎ、または、ごうぎ）すべき役員、部（室）長および課（室）長名を記入して、それに○印を付して回付する。もちろん急を要する場合は持ち回る。

2. 供覧文書のカバーリングの書き方

件名の次に、上記のことについて「何某または何々専門家から別紙（別添）のとおり報告・通知または、連絡があったから」供覧いたします。と記入する。また、下欄にはその要旨を記載して検覧を要する役員、部（室）長または、課（室）長に○印を付して回付する。

3. 本文（文案）の書き方

（注）文案例は参考のためのものである。

- 3.1 研修を依頼する文案例（Fig. 2）（Fig. 3）
- 3.2 稲作専門家の推せん方依頼の照会文案例（Fig. 4）
- 3.3 当事業団職員派遣方の照会に対する回答文案例（Fig. 5）
- 3.4 書き方の注意

文体、用語用字等については、前述のとおりであるが、ここでは特に注意すべきところ（実際の決裁文書等について気のつ

- いたてん)を記す。
- イ. 文字は大きく、わかりやすく書くこと。
  - ロ. て, に, を, は, 句読点「、」, まる「。」等は必ずつけること。
  - ハ. 回答文案の決裁の場合は、必ず照会文書を添付すること。
  - ニ. その他関連のある資料等も、できるだけ添付すること。
  - ホ. 起案した文書は、バラバラにならぬようホチキス等にてとめ添付物があれば併せてクリップにてとめること。
- 3.5 決裁文書の背景をなるべく起案者または、部課長において欄外あるいは、別に貼紙して記載してもらいたい。
- 例：イ. 本件については先方も既に了解済みである。
- ロ. 何々の点については、文書にせず口頭で申し入れることとしたい。
  - ハ. 本件要請は更に調査する必要があるが取敢えず、こう回答したい。
  - ニ. 本件回答が遅れたのは、これこれの事情による。
- 3.6 文書の回覧をうけた部局の意見、注釈等も同様欄外または、貼紙で書いてもらいたい。
- イ. 本件実施の場合はあらかじめ当課に連絡ありたい。
  - ロ. 本件経費については何々の点に留意ありたい。
  - ハ. 本件については在外K所長に通報ありたい。
  - ニ. 何々の資料は本件調査に参考となると思う。
- 3.7 長い文書は冒頭、欄外あるいは、貼紙して、ごく要点を簡単に書いておくと便利で見落しがなくなる。
- 3.8 印刷物、報告書等の場合は注を書き入れるとか、「技術協力」誌関係何ページとか、というように取計らってもらいたい。
- 3.9 電信について(海外電報)
- 起案については、一般文書と同じであるが、料金が非常にかかるから、本文は用件のみ簡明に書くこと。電信については、「国際電報のしおり」を参照されたく。電信起案要領については別途これを示す。

## § Ⅴ そ の 他

### 1. 文書の折り方

折り方は、紙面（文字の書いてある面）を内側にして、三つ折りの場合は3等分して、まず下辺の部分を上方に折り、つぎに上部分を折りかさねる。四り折りの場合は半折、半折とすればよい。

### 2. 名宛の書き方

横書きと、たて書きとがある。官公庁などでは、特別なもの以外はたて書きが用いられているが、会社などでは横書きを用いているところが多い。

手紙の名宛では受取人の氏名は、封筒でも、はがきでも中央に殿または様が上から3分の2位のところに来るように書くのが通例とされている。

（了）

(Fig 2) (文例)

決 裁 文 書

至	急	秘				
件 名 コロポ計画による造船技術研修員の研修方依頼について						
受信者 ○○造船株式会社				発信者		
住 所 取締役社長 何 某 殿				理 事 長 名		
上記のことについて 別紙案(又は下案)のように依頼 してよろしいか伺います。						
会 長	○総務部長	○総務課長	○企画課長			
理 事 長	経理部長					
○専務理事	国内事業部長					
○副専務理事	海外事業部長					
常務理事	開発調査部長					
常務理事	機 業 開 発 協 力 室 長					
監 事	開 発 技 術 協 力 室 長					
監 事	日本青年海外 協力隊事務局長					
	主管理締約長	主管理(室)長	係	起案者 国内課部(室) 研一課(室) (内線 番) 何 某 種 日 起案・昭和 何年 何年 何日		
発 信 番 号	海 技 協 ( ) 第 月 OTCA ( ) 左		発 送 種 別	普通	速達	書留 小包
発 信 月 日	昭 和 年 月 日 付		添付物又は 施工住意			
添 付 書	校 閲	タイプ 印刷	枚			枚

海外技術協力事業団

(注: Fig. 2 と関連のもの)

( Fig. 3) (文 例)

案

文 書 番 号

年 月 日

宛 先 表 記

理 事 長

( 件 名 )

拝啓 時下ますますご清栄のことをお慶び申し上げます。

さて、このたびコロンボ計画により、わが国の技術協力計画に基づき、  
外務省を通じて 名の造船技術研修員受入方の要請がありました。

については、貴 におかれましては、ご多忙のところ誠に恐縮に存  
じますが、下記事項(または、別紙記載事項)ご参照のうえ、この研  
修につき格別のご配慮をくだされますよう、お願い申し上げます。

敬 具

記(または別紙)

1. 氏 名
2. 生年月日
3. 国 籍
4. 研修期間 何年何月何日から何年何月何日まで
5. 研修科目
6. 研修費用等について
7. その他

( A 1 ホームまたは略歴表等あるいはバックグラウンドインホ  
ーメーションを添付する。

(了)

( Fig. 4 ) ( 文 例 )

案

文書番号  
年 月 日

農林省経済局長 殿

理 事 長

稲作専門家の推せん方  
依頼について(照会)

標記の件について、このたび〇〇国から外務省を通じ、別紙要請書(または写)のとおり、コロambo計画に基づく稲作専門家の派遣方の要請がまいりました。

つきましては、公務ご多端の折から誠に恐縮に存じますが、下記御参照のうえこの専門家としての適任者をご推せんいただきたく、同分のご高配をお願いいたします。

おって、推せんの場合は和・英文の履歴書各2部添付くださるようお願いいたします。

記

1. 推せん人員 名
2. 派遣国名
3. 派遣期間 年 月間
4. その他(特記すべき事項あらば記す)

添付物 派遣要請書(または写) 通

( Fig.5 ) ( 文 例 )

伺

このたび、別紙のとおり、〇〇公団から当事業団〇〇部〇〇課職員何某を〇〇の講師として、何月何日から、何月何日まで派遣方についての照会があったので、所管部、課長と打合せたところ差し支えないから、下案によりこの旨回答してよろしいか。

案

番 号  
年 月 日

〇〇公団  
総務部長 殿

総務部長

当事業団の職員派遣について（回答）

何年何月何日付け〇〇第〇〇号をもって御照会のありました、標記の件については、差しつかえありませんので、下記のとおり派遣いたします。

記

1. 氏 名 何部何々課職員 何某
2. 派遣期間 何年何月何日から何年何月何日まで



## 付 録

送りがなのつけ方用例集

語の言いかえ書きかえ

内閣法制局「法令用改正要領」

五十音順用字用語例

同音の漢字による書きかえ

## 内閣告示「送りがなのつけ方」

(昭和34年7月11日)  
(内閣告示第1号)

### まえがき

- 1 この「送りがなのつけ方」は、現代口語文を書く場合の送りがなのつけ方のよりどころを示したものである。
- 2 この「送りがなのつけ方」は、
  - (1) 活用語およびこれを含む語は、その活用語の語尾を送る。
  - (2) なるべく誤読・難読のおそれのないようにする。
  - (3) 慣用が固定していると認められるものは、それに従う。の3か条を方針として定めたものである。
- 3 この「送りがなのつけ方」の通則は、便宜上、品詞別に配列した。  
なお、用例は、送りがなのつけ方を示したものであって、その語を書くのに漢字を用いるかどうかを示すものではない。

### 通 則

#### 第1 動 詞

- 1 動詞は、活用語尾を送る。  
例 書く 読む 生きる 考える  
ただし、次の語は、活用語尾の前の音節から送る。  
表わす 著わす 現われる 行なう 脅かす 異なる  
断わる 賜わる 群がる 和らく
- 2 活用しない部分に他の動詞の活用形またはそれに準ずるものを含む動詞は、含まれている動詞の送りがなによって送る。  
例 浮かぶ(浮く) 動かす(動く) 及ぼす(及ぶ) 語らう(語る) 聞こえる(聞く) 積もる(積む) 照らす(照る) 計らう(計る) 向かう(向く)  
起こす・起こる(起きる) 終わる(終える) 悔やむ(悔いる)

送りがなのつけ方

定まる (定める)

- 3 活用しない部分に形容詞の語幹を含む動詞は、その形容詞の送りがなによって送る。

例 近づく 遠のく 赤らめる 重んずる

怪しむ 悲しむ 苦しがる

- 4 活用しない部分に形容動詞の語幹を含む動詞は、その形容動詞の送りがなによって送る。

例 確かめる

- 5 活用しない部分に名詞を含む動詞は、その名詞の送りがなによって送る。

例 貴ばむ 春めく 先んずる 横たわる

- 6 動詞と動詞とが結びついた動詞は、それぞれの動詞の送りがなによって送る。

例 移り変わる 思い出す 流れ込む 譲り渡す

## 第 2 形 容 詞

- 7 形容詞は、活用語尾を送る。語幹が「し」で終わるものは、「し」から送る。

例 唇い 白い 高い 若い

新しい 美しい 苦しい 珍しい

ただし、次の語は、活用語尾の前音節から送る。

明るい 危うい 大きい 少ない 小さい 冷たい 平たい

- 8 活用しない部分に他の形容詞の語幹を含む形容詞は、含まれている形容詞の送りがなによって送る。

例 重たい 憎らしい 古めかしい

- 9 活用しない部分に動詞の活用形またはそれに準ずるものを含む形容詞は、その動詞の送りがなによって送る。

例 勇ましい 輝かしい 頼もしい 喜ばしい

恐ろしい

- 10 活用しない部分に形容動詞の語幹を含む形容詞は、その形容動詞の送りがなによって送る。

例 暖かい 細かい 柔らかい 愚かしい

- 11 動詞と形容詞とが結びついた形容詞は、その動詞と形容詞との送りがなによって送る。

例 聞き苦しい 待ち遠しい

### 第 3 形 容 動 詞

- 12 形容動詞は、活用語尾を送る。

例 急だ(な) 別だ(な) 適切だ(な) 積極的だ(な)

- 13 活用語尾の前に「た」「か」「ら」「やか」「らか」を含む形容動詞は、その音節から送る。

例 新ただ

静かだ 確かだ

平らだ

穏やかだ 健やかだ

明らかだ 朗らかだ

- 14 活用しない部分に形容詞の語幹を含む形容動詞は、その形容詞の送りがなによって送る。

例 清らかだ 高らかだ

同じだ

- 15 活用しない部分に動詞の活用形またはそれに準ずるものを含む形容動詞は、その動詞の送りがなによって送る。

例 暗れやかだ 冷ややかだ

### 第 4 名 詞

- 16 名詞は、送りがなをつけない。

例 頂 背 趣 疊 隣

ただし、次の語は、最後の音節を送る。

哀れ 後ろ 幸い 互い 半ば 惜け 斜め 替れ 災い

- 17 活用語から転じた感じの明らかな名詞は、その活用語の送りがなをつける。

例 動き 戦い 残り 苦しみ

近く 遠く

ただし、(1)誤読・難読のおそれのないものは、かっこの中に示したように送りがなを省いてもよい。

例 現われ(現れ) 行ない(行い) 断わり(断り)

聞こえ(聞え) 向かい(向い)

起こり(起り) 終わり(終り) 代おり(代り)

(2)慣用が固定していると認められる次の語は、送りがなをつけなくても

## § II 文体について

### 1. 文体について

文体は、口語体をもって書くことに定められているが、ひとしく口語体といっても、「である」体と「ます」体と2種類がある。法律、省令、訓令や官公庁の公文書等は「である」体を用いているが、当事業団は政府関係機関ながら、従来の慣例から「ます」体を用いている。ただし、決裁を得るための文書で外部に送達する必要のない文書、または、外部に発送する往復文書であっても「伺」の説明文は「である」体でよい。

#### 1.1 用いてもよい文語体

文語体は、用いないことになっているが、例外として、次の場合は用いてもよいという基準がある。これは口語の表現を用いると、文が冗長になり、また調子が悪いため、文語で表現した方が便利である理由からである。

用いてもよい用	文語の場合	口語の場合
べき	すべきである	しなければならない
たる	監督官庁たる外務省	監督官庁である外務省
ぬ	つまらぬ問題	つまらない問題
いかなる	いかなる	どんな

また、簡単な表などでは「あり」、「なし」等是用いてよいが「べく・べし」は用いてはならないことになっている。

#### 1.2. 注意すべきこと

- (1) 口語体は「話しことば」だから、そのままを書けばよいというわけではない。やはり洗練された標準語で書かなければならない。
- (2) 文章の調子は一貫して書かなければならない。最初のうちは「である」体で書いていて、最後には「お願い申し上げます」と「ます」体と混同されている文書を、よくみかけるが注意を要することである。
- (3) 敬語については、往復文の場合などの対人関係のものは、相手に応じて礼を失しない程度に用いるのがよいと思われるが、「御

請負 受付 受取 書留 組合 踏切 振替 割合  
割引

貸付金 借入金 繰越金 積立金 取扱所 取締役 取次店 取引  
所 乗換駅 乗組員 引受人 振出人 待合室 見直し 申込書  
浮世絵 小売商 代金引換

- 21 数をかぞえる「つ」を含む名詞は、その「つ」を送る。

例 一つ 二つ 三つ

#### 第 5 代 名 詞

- 22 代名詞は、送りがなをつけない。

例 彼 彼女 何

#### 第 6 副 詞

- 23 副詞は、最後の音節を送る。

例 必ず 少し 再び 全く 最も

ただし、次の語は、その前の音節から送る。

直ちに 大いに

- 24 他の副詞を含む副詞は、含まれている副詞の送りがなによって送る。

例 必ずしも

- 25 名詞を含む副詞は、その名詞の送りがなによって送る。

例 幸いに 互いに 斜めに

- 26 活用語を含む副詞は、その活用語の送りがなによって送る。

例 絶えず  
少なくとも

[注意] 動詞と動詞とが結びついた動詞については、特に短く書き表わす必要のある場合、「打(ち)切る」「繰(り)返す」「差(し)上げる」のように、かっこの中の送りがなを省いてもよい。

表に記入したり 記号的に用いたりする場合には、「晴(れ)」「曇(り)」「問(い)」「答(え)」「終(わり)」「生(まれ)」「押(す)」のように、かっこの中の送りがなを省いてもよい。

## § III 用語用字

### 1. 用語用字について

公文書は、やさしく、わかりやすく書くという趣旨から、用語用字については、じゅうぶんに注意して書く必要がある。

用語用字は、当用漢字表、当用漢字音訓表、当用漢字字体表、現行かなづかい、送りかなのつけ方を用いることになっている。

このことについては、すでに習得されていなくてはならぬが、なお参考のため特に文章起草にあつて、常に当面する一般的に注意を要する用語用字例、および注意すべきこと等について記す。

#### 1.1 一般的な心構えについて

- (1) できるだけ日用語を用いること。やむを得ない場合のほか、むずかしいことばや専門用語はさける。
- (2) 漢字、又はかなづかいは上述のような制限された字を用いることになっているが、この字によって書き表わせないものは、そのことば全体を、かな書きにする。もし、かな書きにすると意味を誤解されるおそれのあるものは、意味の近いことばに言いかえる。
- (3) 必要以上に外国語や特殊な術語は用いない。

#### 1.2 特に注意すべき用語用字について

##### (1) 「御」

「御」は、「ぎよ、お、おん、ご」などの読み方があるが、音訓表では「ご、おん」は認められているが、「ぎよ、お」は認められていないので、用いられない。

「御礼」を「おんれい」と発音させる場合ならよいが、「おれい」と発音させる場合は「お礼」と書く。また、「御願いたします」は「お願いたします。」と書く。

##### (2) 「以上」「以下」「未満」

「以上」と「以下」は、その付属する数字などを含むけれども「未満」はそれを含まない。

##### (3) 「所」「ところ」

「所」は、具体的に場所を示す名詞として用いるが、「ところ」は、抽象的なところ、理由、原因を示す場合に用いる。

「家を建てる所を探す。」「照会したところ、回答があった。」

##### (4) 「物」「者」「もの」

(例) 表わす 著わす 現われる 行なう 脅かす 異なる  
断わる 賜わる 群がる 和らぐ

- 2 活用しない部分に他の動詞((例)においては、( )内に示す。)の活用形またはそれに準ずるものを含む動詞は、含まれている動詞の送りがないよって送る。

(例) 浮かぶ(浮く) 動かす(動く) 及びす(及ぶ)  
積もる(積む) 照らす(照る) 計らう(計る)  
向かう(向く)  
起こす・起こる(起きる) 終わる(終える)  
交わる(交える) 定まる(定める) 代わる(代える)  
混じる・混ざる(混ぜる)

- 3 活用しない部分に形容詞の語幹を含む動詞は、その形容詞の送りがないよって送る。

(例) 近づく 速のく 重んずる 怪しむ

- 4 活用しない部分に形容動詞の語幹を含む動詞は、その形容動詞の送りがないよって送る。

(例) 確かめる

- 5 活用しない部分に名詞を含む動詞は、その名詞の送りがないよって送る。

(例) 先んずる 基づく 横たわる

- 6 動詞と動詞とが結びついた動詞は、それぞれの動詞の送りがないよって送る。

(例) 移り変わる 思い出す 流れ込む 譲り渡す

## 第 2 形 容 詞

- 7 形容詞は、活用語尾を送る。語幹が「し」で終わるものは、「し」から送る。

(例) 白い 高い  
新しい 珍しい

ただし、次の語に限って、活用語尾の前の音節から送る。

明るい 危うい 大きい 少ない 小さい  
冷たい 平たい

- 8 活用しない部分に他の形容詞の語幹を含む形容詞は、含まれている形容詞の送りがないよって送る。



られ、小さな意味の併合的連結には「および」が用いられる。

「または」「もしくは」は意味はほぼ等しいが、単一に用いるときは「または」を用い、選択される語句に段階があるときは、大きい選択的連結には「または」を用い、小さい選択的連結には「もしくは」を用いる。(法律用語辞典による)

(9) 「改正する」「改める」

「改正する」は、全体を改める。「改める」は、部分を改める。

(10) 「直ちに」「すみやかに」「遅滞なく」

「直ちに」は、即刻。「すみやか」は、なるべく早く。「遅滞なく」は、事情の許すかぎり早く。

(11) 要望の度合いの差の表現

イ、しなければならぬ＝絶対にせよ。

ロ、するものとする＝やむを得ない事情のないかぎりする。

ハ、することを原則とする＝しいてしなくもよい。

ニ、外国語で適当な語訳のないものは、かたかなで表わす。

サイクロトン・キャピテーション、etc ………。

(12) 数の書き表わし方について

イ、左横書きの文書では、算用数字(アラビア数字)を用いることを原則とする。数のけたのくぎりについては、三けたごとにコンマ(、)を用いる。

ロ、次の場合には漢字を用いる。

ハ、固有名詞

「研修第一課」「五日市町」等……………。

ニ、数の感じのない場合

「一般」、「一部(一部分の意)」、「一時保留する。」等。

ホ、「ひとつ」「ふたつ」「みっつ」

などと読ます場合

「一つずつ」、「二日続きの休み」、「三月毎にまとめて報告する。」等……………。

ヘ、万以上の数を表わすときの単位として、最後にのみ用いる場合。

「1,000万」、「100億」等……………。

ト、概数を示す場合

「数十日」、「四、五人」、「五、六十万円」等……………。

残り

ただし、(1)誤読・難読のおそれのない語については、次の例に示すように送りがなを省く。

(例) 現れ 行い 向い 起り 終り 代り 止り

(2) 次の語に限って、送りがなをつけない。

卸 組 恋 志 次 宿 恥 話 光 舞 巻 雇

18 形容詞、形容動詞の語幹に「さ」「み」「げ」などがついて名詞になっているものは、その形容詞、形容動詞の送りがなによって送る。

(例) 明るさ 大きさ 確かさ 正しさ

19 活用語を含む複合名詞は、その活用語の送りがなによって送る。

(例) 預け金 頭削り 編み方 行き先 一枚刷り  
 送り状 送り主 格付け 貸借り 手持ち  
 度盛り 中継ぎ 荷積み 日延べ 不渡り  
 干し魚 骨組み 前貸し 間借り 見込み  
 見舞い 持ち株 検査き 利上げ 読み書き

ただし、誤読・難読のおそれのない語については、次の例に示すように送りがなを省く。

(例)	相(接頭語)	明渡し	預り金	編上げぐつ
		買渡し	植付け	受持ち
		受渡し	打合せ会	打切り
		埋立て	売主	売値
		売場	滞止	折詰
		卸値	買入れ	買受け
		買手	買物	書換え
		貸金	貸室	貸出し
		貸付け	借換え	借主
		かん詰	切替え	切下げ
		切詰て	組合せ	組替え
		繰上げ	繰越し	繰延べ
		差押え	下請	縮切り
		備付け	田植	立替え
		月掛	月払	月割
		積立て	手続	届出

法令用語の送りがなのつけ方

取扱い	取替え	取決め	取消し
取下げ	取縮り	取調べ	取立て
取付け	投売り	扱取り	飲物
乗換え	乗組み	話合い	払下げ
払渡し	控室	引受け	引換え
引込み	日願	日割	前払
見合せ	見取り	見習	申合せ
申合せ事項	申込み	申出	持込み
焼付け	届入れ	届主	呼出し
割当て	割増し		

[備考] 「払いもどし」のように、あとの部分をかなで書く場合には、前の動詞の送りがなを省かない。

20 慣用が固定していると認められる次の例に示すような語については、送りがなをつけない。

(例) 請負 受付 受取 埋立地 売出发行

押売	折返線	織物	卸売	卸問屋
買上品	係員	書付	書留	貸方
貸出票	貸付金	貸間	箇条書	肩書
借入金	借方	切手	組合	繰越金
消印	月賦払	小売	小包	差出人
仕掛花火	時間割	下請工事	支払	事務取扱
締切日	備付品	代金引換	ただし書	立会演説
立入禁止	立替金	建物	月掛貯金	付添人
積立金	手当	手引書	手回品	手持品
頭取	取扱人	取入口	取替品	取縮役
取次店	取立金	取付工事	取引	取引所
投売品	荷造費	乗換券	乗組員	場合
払下品	引受人	引替券	引込線	日付
歩合	船着場	振替	振出局	不渡手形
分割払	掘抜井戸	巻尺	見返物資	見積書
見取図	見習工	未払勘定	見舞品	申込書
持込禁止	利付債券	尚替	割合	割当額
割引				

〔備考〕 複合名詞にさらに名詞が加わった語は、誤説・難説のおそれがあるもののほかは、「慣用が固定していると認められる」ものに該当するものと考えられる。

- 21 数をかぞえる「つ」を含む名詞は、その「つ」を送る。

(例) 一つ 二つ 三つ

#### 第 5 代 名 詞

- 22 代名詞は、送りがなをつけない。

(例) 彼 彼女 何

#### 第 6 副 詞

- 23 副詞は、最後の音節を送る。

(例) 必ず 少し 再び 全く 最も

ただし、次の語に限って、その前の音節から送る。

直ちに 大いに

- 24 他の副詞を含む副詞は、含まれている副詞の送りがなによって送る。

(例) 必ずしも

- 25 名詞を含む副詞は、その名詞の送りがなによって送る。

(例) 幸いに 互いに 斜めに

- 26 活用語を含む副詞は、その活用語の送りがなによって送る。

(例) 絶えず 少なくとも

〔注意〕 表に記入したり記号的に用いたりする場合には、「暗(れ)」「曇(り)」「問(い)」「答(え)」「終(わり)」「生(まれ)」「押(す)」のように、原則として、かっこの中の送りがなを省く。

## 送りがなのつけ方用例集

(文部省公用文送りがな用例集)

この用例集は、文部省公用文送りがな用例集(文部省公文書の書式と文例〔昭和34年11月〕)に、内閣法制局「法令用語の送りがなのつけ方」に掲げる用例その他を加えたものである。

○文部省公用文送りがな用例集の掲げ方は、そのまえがきに、次のようにいうとおりである。

1 この用例集は、「送りがなのつけ方」(昭和34年7月11日 内閣告示第1号)に基づいて、文部省における公用文に用いる書き方を示したものである。

2 送りがなを省くことのできるものについては、適宜、その省いた形を右の欄に示してある。

なお、\*印のついているものは、慣用が固定していると認められる場合の書き方(通則20)である。

3 この用例集には、送りがなに関するものだけでなく、「公文作成の要領」(昭和27年4月4日 内閣閣甲第16号依命通知)等に示されている書き方をも便宜のために掲げてある。

○かっこ「〔 〕」、「( )」内は、読み、用法、用法などを示す品詞名等を示したものである。読みを示したものの以外は、編者の新たに書き加えたものである。

○内閣法制局「法令用語の送りがなのつけ方」の用例には、○印をつけて、文部省公用文送りがな用例集の用例と同じであるか、新たに付け加わったものであるかを示した。ただし、左欄は、文部省公用文送りがな用例集にすべてあるものであり、右欄で、○印をつけたもの、および○印をつけたものが二重になって出ているものは、法令用語の送りがなのつけ方では、必ずそう書くものである。

○編者の新たに付け加えたものには、◎印をつけて、そのことを明らかにした。

注意 (1)「御、話、光、雇」の類は、送りがなを省く形で出してある。

(2)かな書きの例は、かな書きが望ましいもの、または必ずしも漢字を用いなくてよいものである。

<p>[あ]</p> <p>あい</p> <p>相 合いかぎ あいかわら ず, 相変 わらず</p> <p>合<small>着</small> 合<small>図</small> 相対する あいづち, 相づち</p> <p>相手 合<small>い</small>の手 合<small>い</small>服 合<small>い</small>間</p> <p>あり 合<small>う</small> 会<small>う</small></p> <p>あお 背<small>い</small> 仰<small>ぐ</small> 背<small>さ</small></p> <p>あか 赤<small>い</small> 明<small>か</small>す 赤<small>ら</small>める あ<small>か</small>り, 明 か<small>り</small> 上<small>が</small>り 上<small>が</small>り口 上<small>が</small>る 揚<small>が</small>る ○明<small>る</small>い</p>	<p>○相</p> <p>合<small>着</small> 合<small>図</small></p> <p>合<small>服</small> 合<small>間</small></p> <p>明<small>り</small></p>	<p>○明<small>る</small>さ 明<small>る</small>み あ<small>き</small> 飽<small>き</small> 商<small>い</small> 商<small>う</small> 秋<small>晴</small>れ ○明<small>ら</small>かだ 飽<small>き</small>る あ<small>く</small> あ<small>く</small>まで あ<small>く</small>る朝 あ<small>け</small> あ<small>け</small>足 揚<small>げ</small>油 明<small>け</small>がた あ<small>げ</small>く 明<small>け</small>森<small>れ</small> 上<small>げ</small>潮 明<small>け</small>放<small>れ</small>る 揚<small>げ</small>物 明<small>け</small>る 上<small>げ</small>る 揚<small>げ</small>る 明<small>け</small>渡<small>し</small> 明<small>け</small>渡<small>す</small> あ<small>さ</small> 浅<small>い</small> 朝<small>起</small>き あ<small>さ</small>はかだ 欺<small>く</small> あ<small>し</small> 足<small>が</small>かり, 足<small>掛</small>かり 足<small>か</small>け, 足 掛<small>け</small></p>	<p>味付け 足止め 足どり, 足 取<small>り</small> 足並み 足踏み 味<small>わ</small>い 味<small>わ</small>う あ<small>す</small> 預<small>か</small>り金 預<small>か</small>る ○預<small>け</small>金 預<small>け</small>る あ<small>そ</small> 遊<small>び</small> 遊<small>ぶ</small> あ<small>た</small> 価<small>値</small> 値 あ<small>だ</small>討<small>ち</small> 与<small>え</small>る ○暖<small>か</small>い 暖<small>か</small>だ 暖<small>か</small>み 暖<small>ま</small>る 暖<small>め</small>る ○頭<small>割</small>り ○新<small>し</small>い 当<small>た</small>り あ<small>た</small>りさ<small>わ</small> り あ<small>た</small>りま<small>え</small> 当<small>た</small>る あ<small>つ</small> 厚<small>い</small></p>	<p>○預<small>り</small>金</p> <p>○頭<small>割</small>り</p> <p>○新<small>し</small>い</p> <p>当<small>り</small></p>
--	--	--	---	---

送りがなのつけ方用例集 (あ〜い)

<p>暑い 熱い 扱い 扱う あつかまし い, 厚か ましい 附がる 厚さ 暑さ 熱さ 集まり 集まる 厚み 集める あて あて, 当て あてこすり 当てこす り 当て込む あて名 あててる 充てる あと あと押し あとかた, 跡形 あとかたづ け, 跡か たづけ 跡継ぎ 跡取り あと払い あと回し あな</p>	<p>集り</p>	<p>穴埋め 侮り 侮る あひ 浴びる あふ あふない 油揚げ 油差し あま 甘い 甘える 雨曇り 余す 雨漏り 甘やかす 雨宿り ○余り(名詞) あまり(副 詞) あまりに (副詞) 余る 甘んずる あみ 編み上げ 編み上げぐ つ 編み上げる ○編み方 網引き 編み物 あむ 編む あめ 雨上がり</p>	<p>編上げ ○編上げ ぐつ 編物</p>	<p>雨降り あや ○危うい 怪しい 怪しがる 怪しげだ ○怪しむ あやぶむ ○誤り 誤る あゆ 歩み 歩み寄り 歩む あら 荒々しい 荒い 洗い髪 洗い粉 洗いざらい 洗い張り 洗い物 洗う 荒削り 荒らす 争い 争う ○新たに 改まる 改める 荒物 ○表わす 現わす ○著わす 表われ</p>	<p>洗張り</p>
---	-----------	---	-----------------------------------	--	------------

現われ 表われる ○現われる 著われる あり 有り明け 有り合わせ ありがたい 有り難い 有り金 ありさま 有田焼き ある ある、有る 歩く あれ 荒れ狂う 荒れ性 荒れ地 荒れ果てる 荒れる あわ 淡い 合わす 合わせ鏡 合わせめ、 合わせ目 合わせる ○哀れ  [い] いか 屈合わせる いい 習い合い	現れ ○現れ  有明け 有合せ  有田焼  合せ鏡 合せ目  習合い	習い合う 習い落とし 習い落とす 習い返す 習い方 習いぐさ 習いだす 習い違い 習いつける 習い伝える 習い伝える 習い直し 習い抜け 習い残す 習いぶん、 習い分 習い回し 習い漏らし 習い漏らす 習いわけ、 習い訳 習い渡し 習い渡す いう 言う …(と)いう いえ 家持ち いか 生かす 怒らす 怒り 怒る いき 生き 行き	習落し  習違い 習伝え 習直し 習抜け  習回し 習漏し  ○習渡し	行きあたり 行きあたり 行きあたり 行きあたる 行きあたる 行きあたる いきいきと 生き写し 生き埋め 勢い〔勢い あまっ てる〕 いきおい (副詞) 生きがい 行き帰り 行き返る 行きがかり 行きがけ 息切れ 息苦しい 意気込み ○行き先 生き死に 生き字引き 行き過ぎ 行き過ぎる 行き倒れ 生き血 行き違い 息づまる、 息詰まる 行きづまる 行き詰ま る	生き字 引 行過ぎ  行倒れ  行違い
---	---	---	---	--	---------------------------------------



送りがなのつけ方用例集 (い〜う)

憤り	いた	否	
憤る	痛い	否む	
息抜き	根回い	… (や) い	
生き残り	◎いたく [不 安を〜]	なや	
生き残る	板敷き	居直る	
生き恥	○頂	居並ぶ	
生き仏	いたって	いぬ	
生き物	板張り	居抜き	
◎生きる	痛ましい	犬死に	犬死
生き別れ	痛み	いね	
いく	痛む	居眠り	
行く	痛める	いの	
… (て) い	至り	居残り	
く	至る	命がけ	
居食い	いたるところ	命取り	
行く先	いち	命拾い	
幾つ	一時払い	祈り	
いけ	答しい	祈る	
生け花	◎一枚刷り	いま	
いさ	いつ	いまいまし	
深い	◎五〜	い	
◎勇ましい	一騎打ち	戒め	
勇む	一足飛び	戒める	
いし	五つ	忌まわしい	
石畳	一点張り	いみ	
石突き	[強気一 点張り]	意味合い	
石造り	一本立ち	忌みことば	
意地っ張り	偽り	いむ	
◎意地悪だ	偽る	忌む	
いそ	いと	いも	
忙しい	井戸替え	芋掘り	
急ぎ	営み	いや	
急ぎ足	営む	卑しい	
急ぐ	井戸掘り	卑しむ	
いそ伝い	糸巻き	いり	
	いな	入り	
		一時払	
		一騎打	
		糸巻	



送りがなのつけ方用例集 (う～え)

行く]		薄らぐ		打ち抜く	
受取人		薄れる		打ち身	
受け取る		薄笑い		打ち水	
誰け人		うた		打ち破る	
受け身	受身	謡[ウタイ]		うつ	
受け持ち	○受持ち	歌い手		打つ	
受け持つ		歌う		撃つ	
受ける		○疑い		討つ	
請ける		疑う		美しい	
受け渡し	○受渡し	疑わしい		写し	
うこ		うち		写し方	
○動かす		打ち明け話	打明け話	写す	
○動き			打上げ花	映す	
○動く		打ち上げ花	打上げ花	移す	
うさ		火	花火	○訴え	
うさぎ狩り			*打上花	訴える	
うさ暗らし			火	写り	
うし		打ち明ける		映り	
牛追い		打ち合わせ	○打合せ	移り変わり	
牛飼い		打ち合わせ	○打合せ	○移り変わる	
失う		会	会	移り気	
○後ろ		打ち合わせる		写る	
◎後ろ髪 <small>〔後ろ髪を引かれる〕</small>		討ち入り	討入り	映る	
後ろ暗い		打ち返す		移る	
後ろだて		打ち切り	○打ち切り	うて	
後ろ向き		打ち切る	(打切る)	腕押し	
後ろめたい		打ち消し	打消し	◎腕組み	
うす		打ち消す		腕比べ	
薄明かり	薄明り	打ち込む		うな	
薄い		討ち死に	討死に	促す	
薄曇り			*討死	うは	
うずまき		打ち出し	打出し	奪う	
薄める		打ち出す		うま	
うずもれる		打ち続く		馬乗り	
		打ち解ける		埋まる	

腕組

生まれ	(生)	假み		麗しい	
生まれ変わる		假む		うれ	
生まれつき		假めしい		売れ	
生まれる		うり		賣い	
うむ		売り	売上げ	賣え	
生む		売り上げ		賣え顔	
産む		売上金		賣える	
うめ		売上高		売れ口	
埋め合わせ	埋合せ	売り惜しみ		売れ高	
埋め合わせる		売り買い	売切れ	売れっ子	
埋める		売り切れ		売れ残り	
埋めくさ		売り切れる	売食い	売れ残る	
埋め立て	○埋立て	売り食い		売れ行き	売行き
埋め立て地	埋立て地	売り子		売れる	
	*○埋立地	売り声	売込み	うろ	
		売り込み		うろ覚え	
		売り込む	○売出し	うわ	
		売り出し	○売出發行	上書き	
埋め立てる		売り出す	売立て	うわさ話	
梅干し	梅干		売手	上敷き	
埋める		売り立て	○売主	上澄み	
うも		売り手	○売値	上包み	
埋める		売り主	○売場	上積み	
うや		売り値		上塗り	
敬い		売り場	売物	◎上乗り【ト	
敬う		売り払う	○売渡し	ラックの	
うら		売り物		上乗り】	
裏打ち		売り渡し		上回る	
裏書き	裏書	売り渡す		上向き	
裏切り		うる		植わる	
裏切り者	裏切者	売る		[え]	
裏づけ、裏付け		潤い		えい	
占い		潤う		絵入り	
占う		潤す		えか	
		潤わす			

送りがなのつけ方用例集 (え〜お)

描く えた 枝伝い えま 絵巻物 えら 偉い 運び出す 選ぶ えり えり飾り えり好み えり抜き えり巻き える 得る 獲る えん 縁切り 縁組み 縁置き 縁結び [お] おあ ◎おあつらい 向きだ おい 老い 追い打ち おいおい (副詞) ◎追い落とし 追いかける 追い風 老い朽ちる		追い越し ◎追い越す 追い込み 老い込む 追い込む 追い銭 追い出す おいたち 追いつく、 追いつく 追いつめる、 追い詰める 追いはぎ 追い羽根 追い払う 老いぼれ 老い松 追い回す 老いる 追分 おう 負う 迫り 扇 おえ ◎終える おお 大当たり 大荒れ 多い ◎大いに 大入り 大入り袋 大寫し 大がかり	追越し 迫込み 大当り 大入袋	○大きい ○大きさ 大きな 大食い 大騒ぎ おおしい 大じかけ、 大仕掛け 仰せ 大助かり 大立ち回り 大立て者 大詰め 大通り 大降り 大回り 大向こう 公 大喜び 大笑い おか 侵す 犯す 冒す 押む おき 沖合い 沖合い漁業 起き上がる 置きごたつ 置き去り 置き手紙 補い 補う	大詰 大向う 沖合 沖合漁業 置き去り
---	--	--	--------------------------	--	---------------------------------

<p>         起き抜け          置き引き          起き伏し          置きみやげ          置き物          ○起きる          おく          置く          …(て)おく          奥書き          奥付け          奥まる          奥行き          遅らす          送り          送りがな          ○送り状          送り届ける          おくり名          ○送り主          送り迎え          贈り物          送る          贈る          遅れる          遅れる          おこ          ○起こす          興す          怠り          怠る          行ない          ○行なり          行なわれる          起こり       </p>	<p>         置き引き          置物          奥書          奥付          奥行          贈物          行い          ○行い          起り          ○起り       </p>	<p>         ○起こる          興る          おさ          抑え          抑える          お下がりがり          幼い          幼子          幼なじみ          治まり          納まり          修まる          収まる          治まる          納まる          納め          納め物          修める          収める          治める          納める          おし          押し          押し合い          押し合り          押し上げる          惜しい          押し入る          押し入れ          押し売り          教え          押し絵          教え子          教える          押しかける       </p>	<p>         押入れ          押売り          *○押売       </p>	<p>         惜しがる          押し切る          惜しげ          押し込む          押し倒す          推し進める          押し出し          押し出す          押しつけ          押しつけが          ましい          押しつける          押しつまる          押し詰ま          る          お忍び          押し葉          推し量る          押し花          おしまい          惜しむ          お湿り          押し問答          押し寄せる          おす          推す          押す          おそ          戮り          おそ咲き          お供え          おそらく          おそれ          恐れ          恐れ入る       </p>	<p>         押し出し          (押)          [虞]       </p>
---	---	---	---	--	---



<p>重苦しい ○重たい 表通り 表向き 重み ○趣 面持ち おもわく、 思わく 思わしい 思わず ◎思わせぶり だ ○重んずる おや 親子連れ 親譲り およ 泳ぎ 泳ぐ および ○及ぶ ○及ぼす おり おり、折り 織り 折り合い 折り合う 折りえり おりおり おりかえし 折り返し 折り返し線</p>	<p>[及び]</p> <p>折返し 線 *○折返 線</p>	<p>折り返す 折り重なる 折り方 織り方 折りかばん 折り紙 折り紙つき 折り紙付 き おりから 折り込み 織り込む 折りたたみ 式 折りたたむ 折り詰め 折りづる 折り箱 おりふし 折り曲げる 折りめ、折 り目 織り元 ○織物 降りる おる 折る 織る おれ 折れ合う 折れ曲がる 折れめ、折 れ目</p>	<p>折詰め *○折詰</p>	<p>折れる おろ ○愚かしい 愚かた 愚か者 卸 卸し売り 卸し周屋 卸し値 卸す 降ろす おわ 終わり ○終わる おん 恩返し 女連れ 音引き [か] かい 買い 買い上げ 買い上げ品 買い上げる 飼い犬 買い入れ 買い入れる 買い受け 買い受ける</p>	<p>○卸 卸売り *○卸売 ○卸問屋 ○卸値 終り (終) ○終り ○買上げ 買上げ 品 *○買上 品 ○買入れ ○買受け</p>
---	---	---	---------------------	--	--



送りがなのつけ方用例集(か〜)

買い切り 買い食い 買い込む 買い占め 買い占める 買い出し 買いだめ 買い付け 買い手 買い主 飼い主 買い値 買い物 ◎買い物車 かう 買う 飼う かえ 代え 換え 替え 替え歌 返し 返す 帰す 替え玉 替え地 替え刃 返り 帰り 返り討ち 返り咲き 返り点 帰り道 省みる 願みる	買切り 買食い 買占め 買出し 買付け ○買手 買主 ○買値 ○買物 返討ち 返咲き	○代える 換える 替える 変える 返る 帰る かお 顔合わせ 顔出し 顔だち 顔つき 顔ぶれ 顔負け 顔向け かか ○掲げる 欠かす 輝かしい 輝かす 輝き 輝く 係り …係 [進行係] 掛かり合う ○係員 係り結び 係る 掛かる かかわる 【◎にかかわらず】 かき 書き限り 書き入れ 書き入れ時	顔合せ 書入れ 書入れ時	書き入れる 書き置き 書き換え 書き換える 書き方 書き下し 書き込み 書き込む かぎ裂き 書きぞめ 書き出し 書きつけ、 書き付け ○書留 書き留める 書き取り 書き取る 書き直す 書き抜き 書き抜く かき回す かき乱す 書き物 限り …(しない) かぎり 限る 書き分ける 書き割り かく ○書く 欠く 格上げ 角刈り 隠し芸	書置き ○書換え 書下し 書込み 書付け *○書付 書取り 書抜き 書割り
---	--	---	--------------------	---	---

隠し事 隠しだて 隠す 格づけ、○格 付け 画引き 楽屋落ち 隠れる かけ 掛け 欠け 掛け合い 掛け合 駆け足 掛け売り 駆け落ち 掛け替え 掛けがね 掛け金 掛け声 駆け込む 掛け算 掛け軸 掛け図 掛け捨て 駆け出し 駆け出す 掛け茶屋 掛け取り 掛け値 掛け橋 駆け引き 掛けぶとん 陰干し 駆け回る	掛合い 掛売り 掛落ち 掛替え 掛金 掛図 掛捨て 駆け出し 掛取り 駆け引き	掛け持ち 掛け物 掛ける 欠ける 駆けける かこ 開い 開り 開み 開む かさ 重なる 重ねる 風向き 飾り 飾りつけ、 飾り付け 飾る かし 貸し 貸し方 貸し切り 貸し金 賢い 賢がる 賢さ 貸し越し 貸越金 貸し下げ 貸し室 ○貸し自動車 貸席 貸し倒れ 貸し出し ○貸出票 貸し出す	掛持ち 飾付け ○貸方 貸切り ○貸金 ○貸越し ○貸室 貸倒れ ○貸出し	貸し地 貸し貸 貸し付け ○貸付金 貸し手 かじ取り 貸し主 貸しぶとん 貸し船 貸本 ○貸間 貸家 [かし や] 筒条書き かす 貸す ◎化する かせ 風当たり 風通し かぜ引き かそ 数え年 数える かた 洞上げ 堅い [×固] かたい、難 い 片思い 肩書き 肩代わり かたき討ち 堅苦しい 片言交じり	○貸付け ○貸主 ○筒条書 風当り ○肩書 肩代り
--	--	--	---	--	--

送りがなのつけ方用例集 (か〜き)

肩凝り	門づけ		かま	
肩透かし	門並み		構え	
かたづく	蚊取り線香	蚊取線香	構える	
かたづける			かみ	
かたどる	かな		髪洗い	
片手落ち	かな書き		紙入れ	
固まり	金切り声		髪飾り	
固まる	悲しい		紙切れ	
傾き	悲しげ		紙包み	
傾く	悲しさ		髪結い	
傾ける	悲しみ		かよ	
固める	悲しむ		通い	
〔×堅〕	かな付き		通い帳	
かたよる	かな交じり		通う	
語らい	○必ず		通わす	
語らう	○必ずしも		から	
語り合う	かね		から揚げ	
語り手	金入れ		辛い	
語り物	金貸し		枯らす	
語る	金包み		ガラス切り	
片割れ	金詰まり	金詰り	から回り	
片割れ月	かねて		辛み	
かち	金回り		かり	
勝ち	金持ち	金持	仮	
…(し)がち	兼ねる		借り	
勝ちいくさ	かの		刈り	
勝ち気	彼[かの]		狩り	
勝ち屋	○彼女		狩り犬	
勝ち負け	かは		借り入れ	借入れ
勝ち味	かば焼き		刈り入れ	刈入れ
かつ	かぶ		○借入金	
勝つ	株分け		借り入れる	
かつ	かへ		借り受ける	
(接続詞)	壁掛け		借り換え	○借換え
勝手口	壁塗り		借り貸し	
かってに				
かと				

借り方 借り着 借り切る 借り越し 借越金 刈り込み 刈り込む 仮住まい 駈り立てる 借り手 かりに、仮 に 仮縫い 借り主 狩り場 借り物 借りる かる 刈る 軽い 軽々しい 軽焼き ◎かれ ○彼(かれ) 枯れ枝 枯れ木 枯れ草 枯れ野 枯れ葉 かれら、彼 ら 枯れる かる かるうじて 軽んずる	○借方  借越し 刈込み 仮住い  ○借主	かわ 川遊び 皮切り 川越し 川沿い 川伝い 川開き 川向こう 代わり …(する) かわり 換わり 替わり 変わり 変わり種 変わり者 ○代わる 換わる 替わる 変わる かん 考え 考え方 考え直す ○考える かん切り ◎感じる ◎感ずる 感づく かんづめ、 かん詰め 芳しい[か んばし い]	川向う 代り ○代り  換り 替り 変り 変り種 変り者    ○かん詰	[き] きあ 気合い 来合わせる きい 黄色い きう 気受け きえ 消える きか 機械編み 着替え 気がかり 気がね、気 兼ね 気構え ◎気軽だ 気変わり きき 聞き誤る 聞き合わせる 聞き入れる 聞き納め 聞き落とし 聞き覚え 聞き書き 聞き方 ○聞き苦しい 聞き込み 聞き過ぎず 聞き捨て 聞き違い 聞き伝え  気変り  聞納め 聞落とし 聞覚え 聞書き  聞込み  聞捨て 聞違い 聞伝え
---	---	--	--	---

送りがなのつけ方用例集 (き〜く)

聞き手		きつ		きや	
聞き取る		きっかけ		客止め	
聞き耳		気づく		客引き	
聞き物		着つけ, 着		気休め	
聞き役		付け		きゆ	
木切れ		気付		○急だ(な)	
聞き分ける		○切手		きよ	
きく		切符	気詰り	清い	
聞く		気づまり,		京築め	
気配り		気詰まり		曲乗り	
木組み		きと		清める	
気組み		気どり		清らかだ	
きこ	聞え	きぬ		きら	
聞こえ		気抜け		切らす	
聞こえる		稍張り		きり	
きさ		きの		切り	○切上げ
刻み		木登り		切り上げ	
刻みたぼこ		気乗り		切り上げる	
刻む		きは		切り売り	切売り
きし		黄ばむ		切り替え	○切替え
岸伝い		気暗らし		切り替える	
きす		きま		切り株	
築く		気任せ		切り紙	
傷つける		気まぐれ		切り髪	
きそ		きまり, 決		切り傷	
鏡う		まり		切り刻む	
きた		決まる		切りくず	
鍛える		きみ		切り口	
きたす		気短だ		切り子	
気だて		きめ		切り口上	
きたる		決め		切り込む	
北向き		決め手		切り下げ	○切下げ
きち		決める		切り下げる	
気遣い		きも		切り捨て	○切捨て
気疲れ		気持ち	気持	切り捨てる	

切り炭		切れめ、切		悔いる	
◎切りそこな		れ目		くう	
う		切れる		食う	
切り出す		きわ		くき	
義理立て		窮まり		くきづけ、	
切り妻造り		窮まる		くき付け	
切りつめる		窮み		くき抜き	
切り詰める		窮め		くぎり	
る		きわめて		くきる	
切り通し	切通し	窮める		くさ	
切り取り	切取り		[く]	臭い	
切り取る				草刈り	
切り抜き	切抜き	くあ		草取り	
切り抜き帳	切抜き帳	くあい		臭み	
		くい		腐らす	
切り抜く	*切抜帳	悔い		腐り	
切り抜ける		食い合う		腐る	
切り花		食い上げ		くされ	
切り張り	切張り	食い荒らす		草分け	
霧吹き		悔い改め		くし	
切り札		食い合わせ	食合せ	くし刺し	
切り干し	切干し	食い入る		くじ引き	○くじ引
切り回す		食い意地		くじ引き券	*くじ引
切り身		食い込み			券
切り盛り	切盛り	食い込む		くす	
きる		食い過ぎ		くすし書き	
切る		食い倒す		くた	
着る		食い倒れ		砕く	
きれ		食い違い		砕ける	
切れ		食い違う		下し	
切れ味		食いつく		下し薬	
切れ切れだ		食い道楽		下す	
切れ込み		食い逃げ		下り	
切れ続き		食い延ばす		下り坂	
切れ端		食い物		下り列車	



<p>         狂い咲き          狂う          苦しい          苦しがる          苦しき          苦し紛れ          苦しむ          苦しむ          車止め          車寄せ          狂わす          狂わしい          くれ          暮れ          暮れ方          暮れる          くら          黒い          黒ずむ          黒塗り          黒光り          黒み          黒焼き          くわ          加える          詳しい          食わす          食わせ物          (者)          企て          企てる          加わる          [け]          けお       </p>	<p>         黒焼       </p>	<p>         毛織物          けか          汚す          けがらわし          い、汚ら          わしい          汚れ          汚れる          けし          ○消印          ◎消しゴム          消し炭          消し止める          けす          消す          削りくず          削る          けた          けた違い          けつ          けっして          欠席届け          月賦払い          けな          毛並み          けぬ          毛抜き          けむ          煙          けわ          険しい          けん          検定済み          見当違い          現に       </p>	<p>         欠席届          ○月賦払          検定済       </p>	<p>         (こ)          こあ          小商い          こい          恋【○～恋          い】          濃い          詣い          恋しい          恋しがる          恋人          こう          請う          校正刷り          暮打ち          ◎効能書き          被る          小売り          高利貸し          小売商          こえ          肥          声変わり          肥える          越える          こお          氷          氷づめ、氷          詰め          凍る          こか          子飼い          木隠れ          焦がす          こがらし          こき       </p>	<p>         ○恋          「恋う」          は文語。          *○小売          *高利貸       </p>
---	---------------------------	---	---	---	---



送りがなのつけ方用例集 (こ〜さ)

小刻み		快い		小降り
小切手		こし		小ぶり [か
こけ		こし入れ		らだを小
焦げ茶色		腰折れ	腰掛	ぶりに振
焦げる		腰掛け		る]
ここ		腰抜け		こま
凍え死に		こす		○細かい
凍え死ぬ		越す		細かだ
凍える		こた		こまごまと
◎九〜		答え	(答)	こまやかだ
九つ		答える	木立	困り者
心あたり	心当り	木立ち		困る
心当たり		こつ		こみ
心あて、心		◎小使 [一作 (用務員	トモ)	込み合う
心あて		業員]		こみあげる
心得違		小作り		ごみ取り
心覚え		○小包		こむ
心がけ		こと		込む
心構え	心変わり	ことづかる		こめ
心変わり		ことづける		込める
心組み		ことづて		こも
志	○志	○異なる		五目並べ
志す		事始め		子持ち
心頼み		断わり	断り	こも包み
心づく		断わり状	断り状	こや
心づくし、		○断わる		肥やし
心尽くし		この		肥やす
心づけ		好ましい		こよ
心積もり	心積り	好み		御用聞き
心任せ		好む		こら
心待ち		好ましい		懲らしめ
試み		こは		懲らす
試みに		拒む		凝らす
試みる		御飯蒸し		こり
心持ち	心持	こふ		凝り
こころもち				
(副詞)				



送りがなのつけ方用例集 (き〜し)

差し出す		里帰り	しい	
さしつかえ		悟り	仕入れ	*仕入先
さしつかえ		悟る	仕入れ先	*仕入品
る		さひ	仕入れ品	
差し用口		寂しい	しう	
差し止め	差止め	寂しがる	しうち	
差し止める		さび止め	しお	
差し伸べる		さびれる	仕送り	
差し控える		さま	潮煙	
差し引き	○差引き	さまざま	仕納め	
差引勘定		妨げ	潮干狩り	
差し引く		妨げる	塩引き	
さしみ		さむ	塩蒸し	
差し向かい	差向い	寒い	塩焼き	塩焼
さしむき		さら	しか	
さしわたし		さらに、更	仕返し	
さす		に	仕掛け花火	*○仕掛 花火
刺す		さる	地固め	
差す		去る	時間割り	○時間割
授かる		さる(…日)	しき	
授ける		さわ	敷居	
さそ		騒がしい	敷石	
誘い		騒がす	敷き皮	
誘う		騒ぎ	敷金	
さた		騒ぐ	敷地	
定まり		さん	敷地	
○定まる		三色刷り	じきに	
○定め		(し)	敷布	
さだめし		しあ	敷きぶとん	
さだめて		試合	敷き物	敷物
○定める		仕上がり	仕切り	
さつ		仕上げ	しく	
座付き		仕上げ工	敷く	
さと		仕上げ工	軸受け	
砂糖入り		しあわせ	しぐさ	
				*仕上工

<p>字配り しくみ、仕 組み しけ 茂み 茂り 茂る しこ 仕込み しす 静かだ 静まる 沈む 沈める 静める しそ 仕損じ した 慕う 下請け 下請け工事 舌打ち 従う 従える 下書き したがって 仕出し 親しい 下敷き〔船 の下敷き になる〕 親しく〔副 詞〕 親しみ</p>	<p>○下請 ○下請工 事</p>	<p>親しむ 下濁へ 舌足らず 下積み 仕立て 仕立て上が り 仕立て券 下手投げ 仕立物 下縫い 下塗り 下働き 下回る 下向き 下読み 慕わしい しち 質入れ しつ 実に 字詰め して 支店詰め しな 品切れ 品定め 地鳴り しに 死に顔 死に金 死にぎわ 死に絶える 死に時 死に場</p>	<p>仕立券 字詰 支店詰 死時</p>	<p>死に屯 死に花 死に水 死にめ、死 に目 死にもの狂 い 死に別れ 死ぬ 死ぬ しの 忍び 忍び足 忍び歩き 忍び込む 忍び泣き 忍ぶ しは 支払い 支払人 支払う 縛る しひ 字引き 地引き網 地響き しふ 洗い 洗抜き 洗塗り 洗み 洗る しほ 絞り 絞り染め</p>	<p>*○支払 字引 地引網</p>
---	---------------------------	--	----------------------------------	---	----------------------------

送りがなのつけ方用例集(し～せ)

絞る しま 仕舞 しまる 縮まり 縮まる 地回り しむ ○事務取扱 しめ しめ飾り 縮め切り 縮め切り日  縮め切る 縮めくくり 示し 示し合わす 湿す 示す 縮め出す 湿らす 湿り 湿る 占める 絞める 縮める しも 霜枯れ 下肥 霜降り 霜焼け しゆ	縮り  ○縮切り 縮切り日 *○縮切り日	臭気止め 十人並み しよ 状差し 稍進揚げ 正札付き 替中伺い しら 知らせ 調べ 調べる 白焼き しり 知り合い 知り合う しり上がり しり押し しり切れ 退く 退ける しる 知る 印 知るべ しれ 知れる しろ ○白い 白光り しん 進行係 進退伺い 陣立て 寝殿造り 信用貸し	知合い  知合い  信用貸	[す] すい 吸い上げ 吸い上げる 吸いがら 吸い口 吸い込む 吸い出す 吸い取り紙  吸い取る 吸い物 すう 吸う すえ すえ置き すえつけ すか 透かし 透かし彫り 透かす すき 好き ◎～過ぎ [昼 過ぎ] 透き写し 透き通る すきま 透き見 すき焼き 過ぎる …すぎる すく	吸上げ  吸取り 紙 *吸取紙          すき焼
---	----------------------------------	---	---------------------------	---	--

<p>         好く          透く          救い          救い主          救う          果くう          ○少ない          少なからず          ○少なくとも          すけ          すけだち          すこ          ○少し          少しも          過ごす          健やかだ          すし          筋合い          筋書き          筋違          筋向こう          すす          涼しい          すす掃き          すす払い          進み          涼み          涼み台          進む          涼む          勧め          進め          勧めめる          進める          すすり泣き       </p>	<p>         筋書          筋向う       </p>	<p>         した          果立ち          果立つ          すて          捨て石          捨て売り          捨て金          捨て子          捨てぜりふ          すでに、既          に          捨て値          捨て身          捨てる          すと          素通し          素通り          すな          砂遊び          砂書き          砂煙          すへ          梳べる          すま          住まい          住まう          澄ます          済ます          すみ          済み          ◎すみか、住          みか          住み込み          住み込む          墨染め          炭取り          炭焼き       </p>	<p>         住い          住込み       </p>	<p>         すむ          住む          混む          済む          すや          素焼き          すり          刷り          刷り上がり          刷り上げる          すり減らす          刷り物          する          刷る          鏡い          すわ          すわり込み          すん          寸法書き          [せ]          せお          背負い投げ          せき          席貸し          せき止め          隅取          せけ          ◎世間話          せつ          ○積 楓 的 だ          (な)          せと          瀬戸引き          せな          背中合わせ       </p>	<p>         背中合          せ       </p>
---	--	--	--	--	---



絶え間 堪える 絶える 耐える たお 倒す 倒れる たか ○高い ○互い 互い違い ○互いに たか狩り 高飛び 高ぶる 高まる 高める 耕す 高らかだ ◎抱かる 高笑い たき 抱き合う 抱き合わせ 抱き込み 抱き込む 抱き込む たき出し たきつけ たく 抱く 宅抜い 巧みだ たし 足し 出し入れ		たしか (副 詞) ○確かさ ○確かだ 確かに ○確かめる 出し物 たす 足す 出す …だす 助かる 助け 助け船 助ける 携える 携わる 尋ね人 尋ねる たた 戦い 戦う ただし ただし書き 正しい ○正しさ 正す ○直ちに ○登 登替え たたむ 漂う 漂わす たち		立ち会い ◎立ち合い 立ち会い演 説 立会人 立ち会う 立ち上がる 立ち居 及ち板 立ち入り 立ち入り禁 止 立ち入る たち打ち 立ち廻り 立ち廻り人 立ち往生 立ちおくれ 立ち泳ぎ 立ち枯れ 立ち木 立ち消え 立ち聞き 断ち切る 立ち食い 立ちぐされ 立ち去る 立ち続け たちどころ に	立会い 立会い演 説 *○立会 演説 立入り 立入り禁 止 *○立入 禁止 立廻り 立廻り 人 *立廻人 立泳ぎ 立枯れ 立消え 立聞き 立食い
---	--	---	--	---	--



送りがなのつけ方用例集 (た〜つ)

立ち止まる		立て替え金	立替え金	たね	
立ち直り			金	種明かし	
立ち直る			*○立替	種切れ	
裁ち縫い			金	種取り	
立ち並ぶ		立て替える		たの	
◎立ちのき		立てかける		楽しい	
立ちのく		立て看板		楽しがる	
立場		横書き		楽しみ	
立ち働く		建具		楽しむ	
立ち話		立て込む		頼み	
立ち番		立て付け		頼む	
立ち回り	立回り	立て続け		○頼もしい	
立ち回り先	立回り先	建坪		たひ	
		立て直し		旅立ち	
立ち回る		建て直し		旅疲れ	
立ち見		立て直す		たへ	
立ち見席	*立見席	建値		食べかけ	
裁ち物		立て場		食べ盛り	
立ち役		立て引き		食べ過ぎ	
立ち寄る		立てひざ		食べ残し	
たつ		立て札		食べ物	
建つ		たてまえ		食べる	
断つ		建て前	建前	たま	
裁つ		建て増し	建増し	卵焼き	卵焼
絶つ		奉る		玉突き	
立つ		○建物		玉乗り	
…だつ		立て役者		たま祭り	
田作り		建てる		たまもの	
立つ瀬		立てる		黙る	
尊い		…だてる		○腸わる	
藤ぶ		たと		たむ	
たて		たとえ話		たむけ	
…立て		たな		たも	
立て板		たな上げ		保つ	
立て替え	○立替え	たな卸し		たや	

<p>絶やす      たら      たらい回し      たり      足りる      たる      足る      たるづめ、      たる詰め      たわ      戯れ      戯れる      たん      段進い      段どり、段      取り      [ち]      ちい      ○小さい      小さな      ちえ      知恵比べ      ちか      誓い      近い      遠い      誓い言      誓う      違う      違える      近く      近しい      ちかぢか      近づき</p>	<p>たる詰      [ち]</p>	<p>○近づく      近づける      近回り      近寄る      力落とし      力比べ      力添え      力づける      力任せ      力負け      力持ち      ちぎ      契り      契る      ちげ      血煙      ちち      ちぢかむ      ちぢこまる      縮まる      ◎縮み      縮む      縮める      ちぢらす      ちぢれる      ちつ      血統き      ちと      血止め      ちの      乳飲み子      ちは      乳離れ      ちま      血祭り      血迷う</p>	<p>力落し</p>	<p>ちや      茶入れ      茶摘み      茶飲み茶わ      ん      茶話      茶わん蒸し      ちゆ      宙返り      ちよ      帳消し      帳づけ、帳      付け      腸詰め      ちょう結び      ちら      散らし書き      散らし髪      散らす      ちらばる      ちり      ちり取り      ちる      散る      ちん      貸貸し      ○貸借り      [つ]      つい      費え      費える      次いで      費やす      つう</p>	<p>腸詰      ちり取</p>
--	-------------------------	---	------------	--	------------------------



つつ		つまみ食い		詰め込む
突っ返す		つまり (剛詞)		詰め将棋
続き		詰まる		○冷たい
続き物		つみ		詰め腹
突っ切る		積み替える		詰め寄る
続く		積み木	積金	詰める
続ける		積み金		つも
突っ込む		積み草		つもり (形式名詞)
憤み		積み肥		○積もる
憤む		◎罪だ(な)		つゆ
筋抜け		積み立て	○積立て	つゆ明け
突っ張る		○積立金		露払い
包み		積み立てる		つゆ晴れ
包み紙		罪作り		つよ
包む		積み荷	○積荷	強い
つと		積み残し	積残し	◎強がり
務め		罪滅ぼし		◎強がる
勤め		つむ		強まる
勤め口		擠む		強み
勤め先		○積む		強める
つとめて		詰む		つら
勤め人		紡ぐ		つら構え
努める		つむじ曲がり		連なる
勤める		つめ		貫く
つな	綱引	…づめ, …	…詰	連ねる
綱引き		詰め		つり
綱渡り		詰め合わせ	詰合せ	つりあい
つね		詰め合わせる		つれ
常に		詰めえり		連れ
つの		詰め替え	詰替え	連れ合い
角突き合い		詰め替える		連れ子
募る		詰めかける		連れ添う
つほ	つば焼			連れ立つ
つば焼き				連れびき
つま				連れる

送りがなのつけ方用例集 (て〜と)

[て]		てき		てと	
てあ		できあい		手取り	
手合い		でき上がり		手取り金	手取金
出合いがし		でき上がる		てな	
ら		○適切だ(な)		手直し	
出会う		できる		手並み	
手厚い		手切れ	手切金	手習い	
○手当		手切れ金		てぬ	
手編み		てく		手縫い	
手洗い	手洗所	手配り		手抜き	
手荒い	手合せ	手繰り網	*手繰網	ては	
手洗い所		てこ		手始め	
手合わせ		手ごたえ		出始め	
てい		てさ		手放し	
出入り	*出入口	出盛り		てひ	
出入り口		手探り		手控え	
手入れ		てす		手びき、手	
てり		手ずから		引き	
手打ち		出過ぎ		手引き書、	*○手引
手討ち		手刷り		手引き書	書
手打ちそば		てせ		てふ	
てお		○手狭だ		手ぶり	
手負い		てた		てま	
手おくれ		手出し		手招き	
手押し車	手押車	手助け		手回し	
手落ち		てち		手回り	
手踊り		手近だ		手回り品	*○手回
てか		手違い			品
手がかり		てつ		出回る	
出がけ		手つき		てみ	
出かける		手作り		手短だ	
手堅い		手付け		てむ	
出語り		手付け金	手付金	手向かい	手向い
手軽だ		手伝い		出迎え	
		手梳き	○手梳	ても	
		出っ張る		○手持ち	



送りがなのつけ方用例集（と〜な）

とさ		飛び込み台	飛び込み台	とむ	
◎閉ざす			*飛び込台	宿む	
とし				弔い	
年越し		飛び込む		弔う	
閉じ込める	戸締り	飛び出しナイフ	飛び出しナイフ	とめ	
戸締まり				留め置き	
年回り		飛び出す		留置電報	
年寄り		飛び立つ		留め針	
閉じる		飛び地		止める	
年忘れ		飛び道具		泊める	
とと		飛び乗る		留める	
届く		飛び火		とも	
届け		飛び回る		共切れ	
届け先		土俵入り		共食い	
届け書				共倒れ	
届け済み		とふ		伴う	
届け出	◎届出	飛ぶ		供回り	
届け出る		とほ		◎度盛り	
届ける		乏しい		とよ	
滞り		とま		土用干し	
滞る		富ます		土用休み	
整う		戸惑い		とら	
整える		止まり	止り	捕える	
とな			◎止り	とらの巻	
唱える		泊まり	泊り	とり	
◎隣		留まり	留り	取り合う	
隣村		泊まりがけ	泊りがけ	取り上げる	
とは			け	取り扱い	◎取扱い
飛ばす		止まり木		取扱所	
とひ		泊まり客	泊り客	取扱高	
飛び上がる		止まる		◎取扱人	
飛び石		泊まる		取扱品	
飛び入り	飛入り	留まる		取扱法	
飛び切り	飛切り	とみ		取り扱う	
飛び込み	飛込み	富	◎富	取り合わせ	取合せ

取り入る		取り込む		取り払う	
取り入れ	取入れ	取り下げ	○取下げ	取り引き	取引き
取り入れ口	取入れ口	取り下げる			*○取引
	*○取入口	鳥刺し		○取引所	
		取りざた		取りぶん	
		取り縮まり	○取縮り	取り巻き	取巻き
取り入れる		○取縮役		取り巻く	
鳥撃ち		取り縮まる		取り乱す	
鳥打ち帽	*鳥打帽	取り調べ	○取調べ	取り持ち	取持ち
とりえ		取り調べる		取り持つ	
取り押える		取り高		取り寄せる	
取り替え	○取替え	取り立て	○取立て	とりわけ	
取り替え品	取替え品	取り立て金	取立て金	(副詞)	
	*○取替品		*○取立金	とる	
				取る	
				採る	
				執る	
取り替える		取り立てる		とれ	
取りかかる		取り違える		取れ高	
取り開む		取り次ぎ	取次ぎ	とわ	
取りかたづける		○取次店		度忘れ	
取り決め	○取決め	取り次ぐ			[な]
取り決める		取り付け	○取付け		
取り口		取り付け工	取付け	ない	
取組		事	工事	ない、無い	
取り組む			*○取付工事	なお	
取り消し	○取消し			直し	
取り消し記事	取消し記事	取り付ける		直す	
	*取消記事	取り残し	取残し	直る	
		取り残す		名折れ	
取り消す	取越し	取り除く		なか	
	苦勞	取り計らい	取計い	長い	
取り越し苦勞	*取越苦勞	取り計らう		長生き	
		取り運び	取運び	中折れ帽	*中折帽
取り込み	取込み	取り運ぶ			
		取り払い	取払い		



送りがなのつけ方用例集 (な〜に)

仲買 仲買人 流し 流し込む 鳴かす 泣かす 流す 仲立ち人 ○中継ぎ 長続き 中継み 仲直り ○半ば〔任期 半ば〕 仲働き 長引く 長らえる 流れ ○流れ込む 流れ造り 流れ屋 流れる なき 泣き 鳴き 泣き顔 泣き暮らす 泣き声 鳴き声 泣き言 泣き叫ぶ 泣き上戸 泣き寝入り 鳴きまね 泣き虫	*仲立人	泣き別れ 泣き笑い なく 泣く 鳴く 慰み 慰む 慰め 慰める なけ 投げ足 投げ入れ 投げ入れる 投げ売り 投げ売り品 投げかける 嘆かわしい 嘆き 嘆く 投げ込む 投げ捨て 投げ捨てる 投げ出す 投げつける 投げ飛ばす 投げやり 投げる なさ ○惜け ○惜けない ○惜け深い なし	投入れ ○投売り 投売り 品 *○投究 品 投捨て	成し遂げる なす 成す なつ 名づけ親 名づける 夏負け 夏向き 夏休み など 名取り なな ◎七〜 七つ 七曲がり ○斜め ○斜めに なに ○何 なの 名のる なま 生揚げ ◎なまだ(な) 生だ(な) なまなまし い 生煮え 生焼け 生酔い なみ 並み 並み足 波打ちぎわ 並み木 涙ぐむ	名取 並木
---	------	---	---	--	----------

<p>なや 悩ましい 悩ます 悩み 悩む なら 習い 習う 鳴らす 慣らす 並び 並び大名 並び立つ ならびに (接続詞) 並ぶ 並べる ならわし なり 鳴り 成り上がり 成り上がる 成金 成り下がる なりたち 成り立ち なりたつ 成り立つ 鳴り物入り なりゆき 成り行き なる 成る 鳴る 鳴子</p>	<p>[並びに] 成立ち 成行き</p>	<p>なれ 慣れ なれあい 慣れる なわ なわ付き なわ飛び なわ張り [に] にあ 似合い 荷揚げ にう 荷受け にえ 煮え 煮え返る 煮え立つ 煮え湯 煮える にか 辛い 二階建て 二階造り 逃がす ◎苦手だ(な) 苦み 似通う 苦り切る 苦りきる 苦笑い にき 握り 握りこぶし 握りずし</p>	<p>握り飯 握る にく 憎い 肉入り 肉入れ 肉切り 憎げ 憎さ 憎しみ 肉づき 憎まれ口 憎み 憎む 憎らしい にけ 逃げ 逃げ足 逃げ口上 逃げ腰 逃げじたく 逃げ出す 逃げ回る 逃げ道 逃げる にこ 濁す 濁らす 濁り 濁り酒 濁り水 濁る にし 西陣織り 西向き</p>
--	------------------------------	---	--

二階建

送りがなのつけ方用例集 (に～の)

にせ 似せる		にん 人気取り		抜き出す 抜き手	
にた 煮出しじる 二段抜き		[ぬ]		抜き取り	○抜き取り
につ 似つかわし い		ぬい 縫い		抜き取る	
荷造り		縫い上げ	縫上げ	抜き身	抜き読み
荷造り費	○荷造費	縫い上げる		抜き読み	
煮つけ		縫い糸	縫糸	抜きんでる	
○荷積み		縫い返し	縫返し	ぬく	
にと		縫い返す		抜く	
二頭立て		縫い方		ぬぐ	
にの		縫い込み	縫込み	ぬけ	
二の替わり	二の替り	縫い込む		抜け穴	
		縫い取り	縫取り	抜け駆け	
		縫いめ、縫い目		抜けがら	
二の次		縫い物	縫物	抜け替わる	
二の舞		縫い紋		抜け毛	
にふ		ぬう		抜け出す	
鈍い		ぬり		抜け道	
鈍らす		ぬか		抜けめ、抜け目	
鈍る		抜かす		抜ける	
には		ぬか喜び		脱げる	
煮干し		抜かり		ぬす	
二本立て		ぬき		盗み	
によ		○抜き [仕事のことを抜きにする]		盗み足	
似寄り		抜き足		盗み聞き	
にる		抜き打ち	抜き打ち	盗み食い	
似る		抜き書き	抜き書き	盗み取る	
煮る		抜き差し		盗み読み	
にわ		脱ぎ捨てる		盗む	
にわか仕込み				ぬり	
匪伝い				塗り	
				塗り上げる	

塗り替へ 塗り方 塗り薬 塗りげた 塗り立てる 塗り付ける 塗り机 塗り盆 塗り物 ぬる 塗る	塗替へ    塗物	ねこ 寝込み 寝込む ねさ 値下がり 値下げ 根ざす ねし ねじ回し ねす 寝過ごす ねずみ取り ねた 根絶やし ねつ 寝つき 値積もり ねと 寝泊まり ねは 粘り 粘る ねひ 寝冷え 値引き ねふ 値踏み ねほ 根柵り葉柵り ねま 寝巻き ねむ 眠い 眠がる	        寝泊り          寝巻	眠け 眠たい 眠らす 眠り 眠り薬 眠る ねら ねらい撃ち ねり 練り 練り糸 練り組 練り直し 練り直す 練りぬみが き 練りようか ん ねる 寝る 練る ねれ 練れる ねわ 根分け ねん 念入り  [の] のあ 野遊び 野荒らし のう 能書き	                          練直し
---	-----------------------	---	---	--	---

送りがなのつけ方用例集 (の～は)

のき		延べ坪		乗り入れ	乗入れ
軒並み		延べ口敷		乗り入れる	
のこ		伸べる		乗り移る	
残し		述べる		乗り降り	
残す		のほ		乗り換え	○乗換え
○残り		上らす		乗換駅	
残り物		上り		○乗換券	
残る		登り		乗り換える	
のせ		上り下り		乗りかかる	
乗せる		登り口		乗り気	
載せる		上り坂		乗り切る	
のそ		上り列車		乗り組み	○乗組み
除く		上る		○乗組員	
野育ち		登る		乗り組む	
望ましい		のみ		乗り越える	
望み		飲みかけ		乗り越し	乗越し
望む		飲み食い		乗り越す	
臨む		飲み薬		乗り込む	
のち		飲み込む		乗り出す	
後添い		飲み倒す		乗りつめ	
のは		飲み手		乗り手	
伸ばす		のみ取り粉		のり巻き	のり巻
延ばす		飲み逃げ		乗り回す	
野放し		飲み干す		乗り物	
のひ		飲み水		のる	
伸び		飲み物	○飲物	乗る	
延び		飲み屋		載る	
伸び上がる		のむ			
伸び縮み		飲む		[は]	
伸びる		のり		はあ	
延びる		乗り合い		○場合	
のへ		乗り合い船		場あたり、	場当たり
延べ				場当たり	
延べ金				はい	
延べ人員		乗り合わせ		灰落とし	灰落し

配当付き		掃く		始める	
はい取り		はけ		走り	
はい取り紙	*はい取紙	激しい		走り書き	走書き
灰吹き		励ます		走り使い	走使い
倍増し		励み		走る	
倍増し料金		励む		◎恥じらう	
歯入れ		化け物		恥じる	
はえ		化ける		はず	
はえ抜き		はこ		恥ずかしい	
はお		箱入り		はた	
羽織		箱入り娘		◎裸参り	
はか		箱書き		知進い	
はがい締め		箱づめ、箱詰	箱詰	果たし合い	果し合い
化がす		運び		果たし状	果し状
墓参り		運ぶ		はたして	
許らい		はさ		(副詞)	
◎許らう		はさみ打ち		果たす	
はからず		はし		磨脱ぎ	
も(副詞)		恥	◎恥	旗持ち	
測り		恥じ入る		働かす	
計り		橋がかり		働き	
量り		端書き		働き手	
量り売り		恥さらし		働き盛り	
図る		端近だ		働きばち	
測る		橋づめ、橋詰		働く	
◎計る		始まり		はち	
量る		始まる		はちあたり	
はき		◎初め		はち合わせ	はち合せ
吐き下し		始め		はち揃え	
掃き立て	掃立て	はじめ(副詞)		はち巻き	はち巻
掃きだめ		はじめて、		はつ	
歯切れ		初めて		初恋	
はく		(副詞)		初氷	
吐く				初刷り	

送りがなのつけ方用例集 (は～ひ)

はて		蘭抜け		払い渡す	
果て		はふ		払う	
果てしない		省く		腹帯	
果てる		はま		腹掛け	
はな		葉巻き	葉巻	腹切り	
花合わせ	花合せ	浜伝い		腹下し	
花盛り		浜焼き	浜焼	晴らす	
花盛り		はや		腹だち	
話	○話	早い		腹違い	
話し合い	○話し合い	速い		腹巻き	*腹巻
話し相手	話し相手	早起き		はり	
話し合う		早帰り		張り	
話し合う		早変わり	早変わり	張り合い	張合い
話し方		早咲き		張り替え	張替え
話し好き		早死にまい		張り切る	
話し手		早じまい		張り子	
放す		早まる		張り込み	張込み
話す		早める		張り込む	
離す		速める		張り裂ける	
花立て		はら		針刺し	
放つ		腹当て		張り出し	張出し
花尽くし	花尽し	払い		張り出す	
花作り		払い込み	払込み	はる	
花摘み		払い込む		張る	
花祭り		払い下げ	○払下げ	春めく	
花結び		払い下げ品	払下げ品	はれ	
歯並び			*○払下品	晴れ	(晴)
離れ				晴れ着	
離れ座敷		払い下げる		晴れ間	
離れ島		払い出し	払出し	○晴れやかだ	
離れ家		払い出す		晴れる	
放れる		○払いもどし		はわ	
離れる		払いもどす		刃渡り	
離れわざ		払い物		はん	
はぬ		払い渡し	○払渡し	番組	

番狂わせ 半殺し 番付 判取り帳 [ひ]	判取帳	引き合い 引き上げ 引き揚げ 引き揚げ者 引き上げる 引き揚げる 引き合わす 引き合わせ 率いる 引き入れる 引き受け ○引受人 引き受ける 引き起こす 引き替え 引き替え券 引き返す 引き替える 引き金 引き込み 引き込み線 引き込む 引き下がる 引き下げ 引き下げる 引き算 引き潮 引き締まる	引上げ 引揚げ 引揚げ者 *引揚者 引合せ ○引受け 引替え ○引換え 引替え券 *○引替券 ○引込み 引込み線 *○引込線 引下げ	引き締め 引き出し 引き出す 引き立て 引き立てる 引き継ぎ 引き継ぐ 引き続き 引き続く 引き綱 引き進める 引き手 引き出物 引き戸 引き止め策 引き止める 引き取り 引き取り人 引き抜き 引き抜く 引き伸ばし 引き伸ばす 引き払う 引き船 引き幕 引きまゆ 引き回し 引き回す 引き水 引き物 引き寄せ 引き寄せ 引き分け	引締め 引出し 引立て 引継ぎ 引止め策 引取り 引取り人 *引取人 引抜き 引伸し 引回し 引分け
ひあ 干上がる 火遊び 日当たり ひい 火入れ 火入れ式 ひう 火打ち石 ひえ 冷え 冷え性 冷える ひか 控え 控え室 控えめ、控 え目 日帰り 控える 日掛け 引かされる 引かす 光らす 光 [日の光 黒光り] 光る ひき 引き ◎ (3期) 引き	日当り *火打石 ○控室 日掛 ○光				



送りがなのつけ方用例集 (ひ～ふ)

引き渡し ◎引き渡し式 引き渡す 引く 低い 日暮れ ひけ 引け 火消し 引け時 引けめ、引 け目 引ける ひき 日盛り 日ざし 久しい 久しぶり ひせ 火攻め 火責め ひそ 潜まる 潜む 潜める ひた 浸す ◎ひたむきだ ひた向き だ 左巻き 浸る ひつ 日づけ、 ○日付 引っ越し	引渡し 引っ越す 引っ込み 引っ込み思 案 引っ込む 羊飼 引っ張りだ こ 引っばる ひと ◎一～ 一打ち 一思い 一重ね 人聞き 一切れ 人込み 人騒がせ 等しい 人死に 人助け 人頼み 人違い ○一つ 人使 人つきあい 一統き ひととおり (刷詞) 人通り 一飛び 人泣かせ 人並み 一握り 一寝入り 一概り	引込み 引込み 思案 人死	人払い 人渡し 人任せ ひとまわり 一回り 人見知り 一群れ 一巡り 一休み 人寄せ 人取り ひとり占め ひとり立ち ひな ひな遊び ひな祭り ひの ○日延べ ひひ 響かす 響き 響く ひや 冷や汗 冷やかす 冷や酒 冷やす 日雇い 冷や水 冷や麦 冷や飯 冷ややかだ ひら 平泳ぎ 開き	○日雇
引越し	引越し			

閉き戸		○歩合	吹く		
閉き直る		ふい	福引き	福引	
閉き封		不意打ち	福引き券	福引券	
閉く		不入り	含まる		
閉ける		ふう	含み		
○平たい		風変わり	含む		
ひらに (刷		封切り	含める		
詞)		封切り館	袋縫い		
平家建て	平家建	封じめ, 封	ふし		
ひる		じ目	◎不しあわせ		
千る		夫婦連れ	節づけ		
翻す		ふか	節回し		
翻る		深い	伏し目		
昼下がりに		深入り	ふす		
昼過ぎ		深まる	伏す		
昼休み		深み	ふせ		
ひろ		深める	防ぎ		
広い		ふき	防ぐ		
拾い主		吹き上げる	伏せ字		
拾い物		吹き替え	伏せる		
拾い読み		吹き込み	ふた		
拾う		[レコー	◎二～		
広がり		下の吹き	不確かだ		
広がる		込み]	○再び		
広げる		吹き込む	○二つ		
広まる		吹きさらし	札つき		
広める		吹き出す	ふつ		
ひわ		吹きだまり	ふつり合		
日割り	○日割	吹き出物	ふて		
ひん		吹き出物	筆入れ		
びんづめ,	びん詰	吹き通し	筆立て		
びん詰め		吹き流し	ふと		
		吹き抜き	太い		
[ふ]		吹き降り	太織り		
ふあ		吹き寄せ	不履き		
		ふく	歩どまり		

送りがなのつけ方用例集 (ふ～ま)

太る		振り		ふるまい	
ふな		降り		ふるまう	
船遊び		ふりあい		古めかしい	
船着き		振り落とす		震わす	
船着き場	○船着場	○振替		ふれ	
船積み		振り返る		触れ	
船乗り		ふりがな		触れ合う	
船酔い		振り切る		触れ太鼓	
不慣れ		振り子		触れ回る	
ふに		降り込む		触れる	
不似合い		振り捨てる		ふる	
ふは		振りそで		ふるしき	
不払い		振り出し	振出し	ふるしき包	
ふみ		○振出局		み	
踏み石		振出人		ふわ	
踏み板		振り出す		○不渡り	
踏切		振り付け	振付け	不渡り手形	○不渡手形
踏切番		降り積もる			
踏み切る		振り回す		ふん	
踏み込む		振り向く		分割払い	○分割払
踏み台		振り分け	振分け	ふんばる	
踏み倒す		振り分ける		分別盛り	
踏み出す		ふる			
踏み段		振る		[へ]	
踏みつけ		降る		へた	
ふむ		古い		べた組み	
踏む		震い		隔たり	
不向き		奮い立つ		隔たる	
ふゆ		奮う		隔て	
冬枯れ		震う		隔てる	
不行き届き		ふるう [振		へつ	
だ		るう]		別刷り	
ふら		震え		○別だ(な)	
降らす		震え声		へや	
ふり		震える		へや住み	

<p>へら 減らす へり 減り へる 減る 経る</p> <p>[ほ]</p>	<p>細引き 細る ほつ 欲する 掘って小 屋 ほと 施し 施す ほな 穂並み ほね 骨借しみ ほねおり ○骨組み 骨つき 骨抜き ほま ○登れ ほり 彫り 彫り上げる 掘り返す 掘り出し物 掘り出す 掘り抜き井 戸 彫り物 掘り掘り ほる 彫る 掘る</p>	<p>細引 掘出し 物 掘抜き 井戸 *○掘抜 井戸 掘掘り</p>	<p>ほろ 減びる 減ぶ 減ぼす ほろ酔い [ほろ酔 いきげ ん] ほん 盆踊り 本決まり 盆巻れ 本省詰め 本店詰め [ま] まい 舞 舞い上がる 舞い扇 舞い子 舞い込む 舞い姫 参る まう 舞う まえ 前祝い 前売り 前置き 前書き 前掛け ○前貸し 前借り 前払い ○前払</p>	<p>本決り 本省詰 本店詰 ○舞 舞扇 舞子 舞姫 ○前払</p>
<p>ほう 砲丸投げ 棒立ち 棒引き 罪る 棒読み ほか …(の)ほ か(形式 名詞) 帆かけ船 朗らかだ ほこ 誇らしい 誇り 誇る ほし ○干し魚 干しがき 干し草 星回り 干し物 ほす 干す ほそ 細い</p>				

送りがなのつけ方用例集 (ま〜み)

<p>前触れ 前向き ○前渡し まか 間貸し 負かす 任す 任せる 曲がり ○間借り 曲がりかど 間借人 曲がる まき 巻(巻き) ○卷 【巻の一 ねじの巻 き】 巻き上げる 巻き貝 巻き紙 *巻紙 巻き髪 *○巻尺 巻き舌 巻添え 卷添え 巻きたばこ 巻物 巻物 紛らす 紛らわしい 紛れ込む 紛れる まく 巻く 幕切れ まくれ当たり 当り</p>	<p>*間借人 *○卷 *巻紙 *○巻尺 巻添え 巻物 まぐれ 当り</p>	<p>まけ 負け 負けいきさ 負け借しみ 負け癖 曲仔物 負ける 曲げる まこ まことに (副詞) 孫引き まさ まさり劣り 混ぜり物 ○混ぜる 交ざる まし 増し ○交える 交じらい 混ぜり物 混ぜりけ ○混じる 交じる 交わり ○交わる ます 増す 貧しい ませ 交ぜ織り 混ぜ物 ○混ぜる 交せる</p>	<p>また また または、又 は まち 待合室 待ち合わせ 待ち合わせ 待ち合わせ 時間 まちがい まちがう 間近だ ○待ち遠しい 町並み 待ち人 待ち伏せ まつ 待つ 松飾り ◎まつ赤だ、 真っ赤だ ◎まつ暗だ、 真っ暗だ まつ盛り ◎まつ白だ、 真っ白だ まったく、 ○全く 全うする 祭り 祭る まと 感い 感う</p>	<p>待合せ 待合せ 時間 [時刻] 待伏せ</p>
---	--	---	---	--

<p>窓掛け 固取り 惑わす まな 学び 学ぶ まぬ ○免れる まぬけ まね 招き 招く まの 間延び まむ 真向かい まめ 豆絞り まも 守り 守り袋 守り札 守る まよ 迷い 迷い子 [マ イゴは 「まい子」] 迷う 迷わす まる 丸い ○まるまる (副詞) 丸める 丸焼け</p>	<p>真向い</p>	<p>まわ 回し者 回す 回り 回り合わせ 回り舞台 回り道 回り持ち 回る まん 万引き [み] み ◎三～ みあ 見合い 見合い結婚 見あたる、 見当たる 見合わせ みい 実入り みう 身動き 見失う 身売り みえ 見え 見え坊 見える みお 見送り 見納め 見落とし 見劣り</p>	<p>*万引 *見合結婚 ○見合せ 見落し</p>	<p>見覚え みか 見返し 見返り 見返り物資 見かけ 見かけ倒し 身構え 身代わり みぎ 見聞き 見切り 見切り品 みく 見比べる 見苦しい みこ ○見込み 見込み違い みさ 見定める みし 短い 短夜 身じまい 見知り越し みす 水遊び 水浴び 水洗い 水入れ 水かけ論 見透かす みすから、 自ら</p>	<p>*○見返 物資 身代り *見切品</p>
---	------------	--	---------------------------------------	---	-------------------------------------

送りがなのつけ方用例集 (み～め)

水煙		見つける		見晴らし	
水差し		三つ [みつ]		見晴らし台	
水攻め		見積もり	○見積り	見晴らす	
水責め		○見積書		見張り	
水引き	水引	見積もる		見張り番	*見張番
水浸し		みと		みふ	
水増し		見通し		身ぶり	
水盛り		見届ける		身霞い	
みせ		認め		みま	
見せかけ		認め印		○見舞い	
店先渡し		認める		見舞い品	*○見舞品
見せ物		見取り図	*○見取	見舞う	
見せる		みな	図	みみ	
みた		○みな	[指]	耳打ち	
見出し		見直す		耳飾り	
満たす		身投げ		耳鳴り	
乱す		見習い	○見習	耳寄り	
見立て		見習い工	*○見習	みも	
乱れ		見慣れる	工	身持ち	
乱れ髪		みに		みや	
乱れ箱		醜い		都落ち	
乱れる		みね		都育ち	
みち		峰越し		宮仕え	
身近だ		峰続き		みよ	
道連れ		みの		身寄り	
導き		身の回り		みる	
導く		実り		見る	
道行き		実る		…(して)み	
満ちる		見計らい		る	
みつ		見始め		みわ	
○三つ[みつ]		未払い		見渡し	
三つ折り		未払い勘定	*○未払		[む]
三つ重ね			勘定		
三つ組み	三つ組				
身繕い					

<p>◎六〜 むか 向かい 向かい合<small>あ</small>ひ 向かい合<small>あ</small>わす 向かい合<small>あ</small>わせ 向かい風 ○向かう 迎え 迎え火 迎える 昔語り 昔話 むき 向き 向き合<small>あ</small>う 麦打ち むく ○向く 報い 報いる むけ 向け 向ける むこ 婿入り 向こう 向こう見ず 婿取り むし 蒸し器 蒸し返し 蒸し菓子 虫食い 蒸しずし</p>	<p>向い ○向い 向い合 向い風 むす 蒸す 結び 結びめ、結<small>む</small>び目 結ぶ むせ むせび泣き むた むだ話 むつ 六つ〔むつ〕 六つ〔むつ〕 むと ○無届け むな 胸騒ぎ むね むね上げ むね上げ式 むね閑り良屋 むら ○群がる 蒸らす むれ 蒸れ 群れ 蒸れる</p>	<p>蒸しぶろ 虫干し 蒸し焼き 蒸し焼き器 蒸焼き 蒸焼き器 *蒸焼き器 むす 蒸す 結び 結びめ、結<small>む</small>び目 結ぶ むせ むせび泣き むた むだ話 むつ 六つ〔むつ〕 六つ〔むつ〕 むと ○無届け むな 胸騒ぎ むね むね上げ むね上げ式 むね閑り良屋 むら ○群がる 蒸らす むれ 蒸れ 群れ 蒸れる</p>	<p>群れる むろ 室咲き [め] めあ 目明き 目あて、目当て めう 目移り めか 目隠し 目がける めく 目くされ金 慮み 慮む 芽ぐむ 巡らす 巡り 巡る めさ 目刺し めし 召し上がる 召し物 目印 めじろ押し めす 召す ○珍しい めた 目だつ めつ</p>
---	---	---	--



送りがなのつけ方用例集 (めへや)

目つき		申立人		持ち逃げ	持逃げ
めと		申し立てる		持ち主	持主
目通り		申し出	○申出	持ち場	
めぬ		申し開き	申開き	持ち分	持分
目抜き		申しぶん		持ちまえ	
めは		申しわけ		持ち回り	持回り
目張り		申し渡し	申渡し	持ち物	持物
めへ		申し渡す		持ち寄る	
目減り		申す		もつ	
めも		もえ		持つ	
目盛り		燃え		○最も	
	[も]	燃え上がる		もつ焼き	
		燃え残り	燃残り	もて	
もう		燃える		持て余す	[もてあます]
設け		もし			
設ける		もしくは、		もてなし	
申し上げる		若しくは		もと	
申し合わせ	○申合せ	もち		基[もとい]	
申し合わせ	○申合せ	持ち上げる		元縮め	
事項	事項	持ち合わせる		○基づく	
申し合わせ		持ち合わせ	持合せ	元どおり	
る		持ち合わせ	持合せ	求め	
申し入れ	申入れ	品	持合せ品	求める	
申し入れ事	申入れ	持ち家		元結い	
項	事項	用いる		もの	
申し入れる		○持ち株		…(という)	
申し受ける		持ち越し	持越し	もの	
申し送り	申送り	持ちごま		物言い	
申し送る		持ち込み	○持込み	物忌み	
申し込み	○申込み	持ち込み禁	持込み	物売り	
○申込書		止	持込み	物置き	物置
申し込み済	申込み		禁止	物借しみ	
み	済み		*○持込	物覚え	
申し込む		持ち出し	持出し	物思い	
申し立て	申立て	持ち出し禁	持出し	物語	
		止	禁止	狂物い	

ものさし	盛る	やく落とし	やく落し
物知り	もれ	役替え	
物好き	漏れ	役所勤め	
物取り	漏れる	役だつ	
物干し	もん	役付き	
物持ち	門構え	やく払い	
物別れ	紋切り型	役回り	
物忘れ	門前払い	役割	
物笑い	絞付き	やけ	
もみ	[や]	焼け	
もみじ狩り	や	焼け跡	
もも	◎八～	焼け石	
桃割れ	やき	焼け焦げ	
もや	焼き	焼け土	
燃やす	…焼き	焼け野	
もよ	焼き芋	焼け火ばし	
催し	焼き印	焼け太り	
◎催し場	焼き金	焼ける	
催し物	焼きぐり	やさ	
催す	焼きごて	家捜し	
もら	焼きざかな	優しい	
もらい泣き	焼き塩	やし	
漏らす	焼きそば	屋敷	
もり	焼きたて	釜い親	
漏り	焼き付け	釜い子	
盛り	焼き豆腐	釜う	
盛り上がり	焼き鳥	やす	
盛り上げる	焼き直し	安上がり	
盛り返す	焼き肉	安い	
盛り菓子	焼き場	安請け合い	
盛り切り	焼き飯		
盛り砂	焼きもち	安売り	
盛り花	焼き物	安っぽい	
もる	やく	休まる	
漏る	焼く	休み	
		安請合 い	

送りがなのつけ方用例集 (や～よ)

休み茶屋 休み所 休む 休める 安らかだ 安んずる やた 矢立て やつ 入つ[やつ] 入つ当たり 矢つきばや 入つ裂き 入つ [やつ つ] やと 雇 [◎～雇 い] 雇い入れ 雇い人 雇い主 雇う 宿す 宿り 宿り木 宿る やな 家並み 家鳴り やね 屋根伝い やぶ入り 破る 破れ	八つ当 り ○雇 ○雇入れ *雇人 *○雇主	◎破れかぶれ 破れがさ 敗れる 破れる やま 病[やまい] 山狩り 山越え 山出し 山伝い 山紐き 山登り 山開き 山伏し 山盛り 山焼き 山分け やみ 病み上がり やみ討ち やむ 病む ◎やむ やり ◎やり送ける やり直し やり投げ やわ ○柔らかい 柔らかだ 柔らかみ ○和らぐ 和らげる	[ゆ] ゆあ 湯上がり ゆい 結い立て ゆう 結う 夕暮れ 夕涼み 夕立 夕べ 夕焼け 夕焼け雲 ゆか ゆかしい ゆき 行き 行きあたり 行き当た り 行きあたる 行き当た る 雪折れ 行き隔り 行きがかり 行きがけ 行き方 行き先 行き過ぎ 行き違い 行きづまり 雪解け 行き届く	行過ぎ 行違い
--	---------------------------------------	--	--	------------

行き悩み 行き場 雪晴れ 雪降り 行き道 行き渡る ゆく 行く 行くえ 行く先 行く末 行く手 ゆす 譲り 譲り合う 譲り受ける 譲り状 譲り渡し 譲り渡し書 譲り渡し人 ○譲り渡す 譲る ゆた 豊かだ ゆと 湯通し ゆの 湯飲み ゆひ 指切り 指さす 指ぬき ゆみ	行悩み 弓取り 弓張り月 ゆら ◎揺らく ゆり 揺りかご ゆる 揺る 許し 許す ゆれ 揺れ 揺れる ゆわ 結わえる 湯沸かし 湯沸かし器 [よ] 譲渡し よ ◎四～ よあ 夜明かし 夜明け 夜遊び 夜歩き よい 良い 酔い 酔いごこち よい越し 酔いざめ 酔い倒れ よう 酔う 用立てる 夜耐ち 用向き	よく 欲張り よこ 横合い ○横書き 横切る よこす ○横たえる 横倒し 横倒れ 横たわる 横づけ 横取り 横流し 横流れ 横降り 横向き よし よしず張り よす 世捨て人 *世捨人 よせ 寄せ集め 寄せ集める 寄せ書き 寄せ木細工 寄せ算 寄せなべ 寄せる よそ 装い 装う よつ 四つ[よつ] 世継ぎ よって
---	--	--

送りがなのつけ方用例集 (よ〜わ)

<p>四つ【よっつ】 酔っ払い よと 夜通し よな 夜泣き よに 夜逃げ よは 呼ばわる よひ 呼び合ひ 呼び起こす 呼び返す 呼びかけ 呼びかける 呼び子 呼び声 呼び捨て 呼び出し 呼び出し電話 呼び出す 呼びつける 呼び値 呼び物 呼び寄せる 呼びりん【鈴】 よふ 呼ぶ よま 夜回り よみ 読み</p>	<p>呼捨て ○呼出し 呼出し電話</p>	<p>読み上げる 読み取り 読み合わせ 読み終わる ○読み書き 読みかけ 読み方 読み切り 読み手 読み札 読み物 よむ ○読む よめ 嫁入り より 寄り 寄り合い 寄り合い世帯 寄り合う 寄り集まり 寄り集まる 寄りかかる より好み より取り より抜き 寄り道 よる よる、因る 寄る 寄るべ よろ 喜ばしい 喜ばす</p>	<p>読物 寄合い 寄合い世帯 寄集り</p>	<p>喜び 喜ぶ よわ 弱い ◎弱腰 世渡り 弱まる 弱み 弱める 弱々しい 弱る らく 落書き 楽焼き りあ ○利上げ りき ◎力む りく 陸上げ 利食い りつ 利付き 利付き債券 理づめ りま 利回り りよ ○両替 両切り</p>	<p>【ら】 【り】 *○利付債券</p>
---	-------------------------------	---	-------------------------------------	---	-------------------------------

両切りたば こ 両建て 両刀使い [れ]	別れる わき 沸き 沸き上がる 沸き返る 沸き立つ 輪切り	渡り 渡り合う 渡り合ふ 渡りぞめ 渡り鳥 渡り廊下 渡る	
れん れんが造り [ろ]	わく 沸く わけ 分けまえ 分けめ、分 け目 分ける	わな 輪投げ わひ わび住まい	わび住 い
ろう ろう引き ろて 露天掘り ろひ 炉開き [わ]	わさ ○災い わす 煩い 煩う 煩わしい 煩わす 忘れ形見 忘れ物 忘れる	わら 笑い 笑い顔 笑い声 笑い上戸 笑い話 笑う わら包み	
わか 若い 若死に 沸かし湯 沸かす わかち書き 若作り 若やぐ わかる [×解]	わた 箱入れ 箱打ち わたくし (代名詞)	わり 割り …割〔2割〕 ○割合 割り当て 割り当て額	○割当て 割当て 額 *○割当 額
別れ 別れ話 別れ道 別れめ、別 れ目 分かれる	私 渡し 渡し場 渡し船 渡しもり 渡す	割り当てる 割り印 割り勘 割り切る 割り込む 割り算 割高	

送りがなのつけ方用例集（わ～）

割り出す 割り注 割り付け 割り判 ○割り引 割り引く 割り符 割りふり 割りまえ 割り増し 割り交	割り付け          ○割り増し	割りもどし 割安 わる 割る 悪い わるくち、 悪口 われ われ（代名 詞） 我（名詞）	割れ 割れめ、割 れ目 割れ物 われら（代 名詞） 割れる
--	---	--	---

## 語の言いかえ書きかえ

1. 内閣法制局「法令用語改正要領」
2. 五十音順用字用語例（文部省「用字用語例」）
3. 国語審議会「同音の漢字による書きかえ」





## 内閣法制局「法令用語改正要領」

(昭和20・11・26、法制局長官第89号)  
(法制局次長から各省庁事務次官あて)

法令用語の改善については、本年10月7日事務次官会議で、国語審議会の「法令用語改善についての建議」の趣旨をおおむね妥当とし、支障のない限り国語審議会の作成した「法令用語改正例」に準拠する方針を申し合わせたが、当局でその実施要領を検討した結果、今後次の方針によって実施することとしたから、御了知願いたい。

### 法令用語の改正の方針

- 1 国語審議会の作成した「法令用語改正例」のうち、別紙改正要領に記載したものは、法律については第20回国会に提案するものから、政令については12月1日以降の閣議に提案するものから実施することとし、別紙改正要領に記載していないものは、今後検討の上漸次実施する予定であるが、その場合は、改めて実施の期日を定める。
- 2 実施の方法としては、新たに法律又は政令を制定する場合は、必ず別紙改正要領によるものとし、既存の法律又は政令を改正する場合において、改正が法令の相当な部分にわたるとき、改正の部分のみに改善すべき用語があるとき、その他大きい支障なしに別紙改正要領によることができると認められるときは、これによるものとする。

[別紙] 法令用語改正要領	
第1 同音語	
<p>(A) 次のものは、一般に用いられるものだけを残し、一般的でないものは、今後他の表現を考える。</p> <p>(遣委) 棄棄 (用いない。)</p> <p>(会開) 議議 (用いない。たとえば、「会議を開く」とする。)</p> <p>(開成) 示示 (用いない。)</p> <p>(看監) 守守 (用いない。)</p> <p>(技技) 官監 (用いない。)</p>	<p>(原 備) 備 (用いない。たとえば、「減損額」とする。)</p> <p>(不 正) 整 (用いない。)</p> <p>(B) 双方ともよく用いられてまぎれやすい次のものは、そのうちの一方または双方を一定の形に言いかえて用いる。</p> <p>(解 任) 任→改めて任ずる、交代</p> <p>(看 護) 監→監督保護</p>

法令用語改正要領

(管守) 守 → 保管	規制	規制
(干渉) 干渉 → つかさどる	制正	規制
(管理) 管理 → 監督管理	規律	規律
(監理) 監理 → 監督管理	規紀	規紀
(起因) 起因 → もとづく, 基く*	釋理	釋理
(規定) 規定 → 規則	交代	交代
(公告) 公告 → 公示	作成	作成
(厚生) 厚生 → 訂正, 修正	酌	酌
(更生) 更生 → 再建, 再起	參酌	參酌
(詐偽) 詐偽 → 偽り		[編者注一酌は当案用漢字表補による]
(前証) 前証 → 証書, 証片, 証紙	主管者	主管者
(証証) 証証 → 証票, 証憑, 証	招集	招集
(正成) 正成 → 所定	招集	招集
(調製) 調製 → 作成	消却	消却
(表決) 表決 → 議決	消却	消却
(報償) 報償 → 奨励	状況	状況
(法令) 法令 → 準拠法令, 法令の適用関係		(落況 → 常の状況)
(保佐) 保佐 → 補助者, 補助人	侵害	侵害
(C) 次のものは、統一して用いる。	提示	提示, 示す
改定	提出	提出
訂定	提出	提出
干渉	定年	定年
干渉	統括	統括
干渉	統括	統括
干渉	配布	配布
干渉		(配賦 → 割当*)
干渉	破壊	破壊
干渉	破壊	破壊
干渉	表示	表示
干渉	表示	表示
干渉	統括	統括
干渉	統括	統括

和 解 } 和 解  
 和 語 }  
 (D) 同音語でも、意味のまぎれる  
 おそれのない下記のようなもの  
 は、そのまま用いる。  
 (継 統  
 係 展

(広 告  
 抗 告  
 債 権  
 債 権  
 際 害  
 傷 害

### 第 2 似た意味のことば

次のことばは、統一して用いる。

改 定 } 改 定  
 改 訂 }  
 交 代 } 交 代  
 交 更 }  
 交 代 }  
 交 送 }  
 左 次 } 次 の

越 意 } 越 旨  
 旨 旨 }  
 正 当 } 正 当 な 理 由  
 正 當 }  
 正 當 }  
 証 憑 } 証 憑  
 憑 憑 }  
 憑 憑 }

### 第 3 意味の通じにくい、むずかしいことば

(A) 次のことばは、表現が簡単すぎ  
 ぎてわかりにくいから、一般に通  
 じやすい表現に改める。

医 籍 → 医師名簿  
 勸 解 → 和解勧告、和解をすす  
 める  
 監 護 → 監督保護  
 毀 棄 → 損壊又は廃棄  
 漁 撈 → 水産動植物の採捕  
 誹 毀 → 名誉損傷  
 蚕 蛹 → 蚕のさなぎ  
 臨 検 → 立入検査

(B) 次のことばは、似た意味の漢  
 字を重ね合わせてしてむずかし  
 く作られているから、それぞれわ  
 かりやすい日常語に改める。

遺 脱 → (判断を～)し忘れる

違 背 → 違 反  
 開 陳 → 述べる  
 勸 奨 → すすめる  
 希 求 → こいねがう  
 享 受 → 受ける  
 具 有 → 有する  
 枝 条 → 枝  
 思 料 → 考える  
 遵 守 → 守る  
 尽 了 → 終る\*  
 成 造 → 作る  
 送 致 → 送る、送付  
 疏 匿 → かくまう  
 脱 漏 → もれ  
 盜 取 → 盗む  
 厨 室 → 室、べや  
 申 述 → 述べる、申立\*

法令用語改正要領

論 示→示す, さとす	綱 綴→とじる, とじ合わせる
擁 壁→かこい	包 裏→包み
(以下は, 当用漢字表にはずれた漢字を用いたことば。)	抹 消→消す, 消除
隠 蔽→隠す	踰 越→越える
湮 滅→なくする, 隠滅	誘 拐→かどわかす
汚 穢→よごれ	湧 出→わき出る
捫 引→かどわかす	宥 怒→ゆるす
灰 燼→灰	塞 塞→ふさぐ
開 披→開く	襍 糺→ぼろ
扞 止→(土砂の～)止め, 防止	漏泄, 漏洩→漏らす
毀 壞→そこなう	歪 曲→ゆがめる
欺 騙, 欺騙→だます	(C) 次のことばは, わかりやすい外来語に改める。
狹 隘→狭い	堰 堤→ダム
驚 愕→驚く	汽 罐→ボイラー
掘 鑿→掘る	空気槽→空気タンク
懈 怠→怠り	骨 牌→かるた類
喧 騒→騒がしい, やかましい	酒 精→アルコール
戸 扉→戸	橋 頭→マストトップ
溝 渠→みぞ	船 渠→ドック
誤 謬→誤り	端 舟→ボート
鎖 鑰, 鑰匙→かぎ	油 槽→油タンク
遮 断→とめる	(D) その他, 次のような漢語の使用は, できるだけ避けて, それぞれ他のわかりやすい表現に改める。
戮 骨→ひげ	威 嚇(用いない。)
燒 燬→焼く	閱 歴→経歴
牆 壁→しきり	永 期→長期
塵 埃→ほこり	解 止(用いない。)
塵 芥→ごみ	加 功(用いない。)
阻 隔→くい違い	行 用→行使
隊 伍→隊	事 由(用いない。)
堆 積→積る*	賜 与(用いない。)
治 癒→なおる	疾 病→病気
禱 祀→祈*	
紊 亂→乱す	
悞 謬→あわれむ	

召喚→呼出し\*  
 成丁者→成年者  
 窃用→盗用  
 代務者→代行者  
 通事→通訳人  
 売得金→売却代金, 売上金

配賦→割当\*  
 版図→領域  
 没取する→国庫に帰属させる  
 満限に達する→満了する  
 輸納→提出

第4 当用漢字表・同音訓表にはずれた漢字を用いたことば

(A) かな書きにしても誤解のおこらないことばは、かなで書く。この場合、かなの部分に傍点をつけることはやめる。

恐喝→きょうかつ  
 強姦→ごうかん  
 芥溜→ごみため  
 昏酔→こんすい  
 屠殺→とさつ  
 賭博→とぼく  
 煉瓦→れんが  
 製蓑→わいせつ  
 畏→わな  
 賄賂→わいろ  
 庫裏→くり  
 煙草→たばこ  
 諮詢→はかる  
 以て→もって  
 此→この  
 之→これ  
 其→その  
 為→ため  
 等(ら)→ら

かな書きにする場合、単語の一部分だけをかなに改める方法は、できるだけ避ける。

あっ旋→あっせん

と段→とさつ  
 ただし、漢字を用いた方がわかりよい場合は、この限りでない。

あへん煙  
 あて名  
 ちんでん池  
 ほうろう鉄器

(B) 次のものは、当用漢字表・同音訓表にはずれた部分を、それぞれ一定の他の漢字に改めて書く。

愚藉料→愚謝料  
 苑地→園地  
 外廓→外郭  
 吃水→喫水  
 養応→供应  
 魚船→魚倉  
 繫留→係留  
 繫船→係船  
 繫属→係属  
 闊席→欠席  
 交叉点→交差点  
 扣除→控除  
 雇傭→雇用  
 弘報→広報  
 撒水管→散水管  
 醇化→純化  
 障碍→障害

法令用語改正要領

侵	蝕→侵食	竣	功→完成
訊	問→尋問	傷	疾→傷病
洗	滌→洗淨	塵芥焼却場	→ごめ焼き場, ごみ焼却場
疏	明→疎明		
定繫港	→定係港	神	祠→ほこら
碇泊	→碇泊	蔬	菜→野菜
預覆	覆→転覆	稠	密→周密
破棄	毀→破棄	貼	付→はりつける
蕃植	→繁殖	抵	触→ふれる, 抵触
抛棄	→放棄	堤	塘→堤
補助	助→補助	填	補→うめる
緬羊	→綿羊	韻	末→始末, 事の経過
落盤	磐→落盤	充	淫→充存
剩す	→余す	播	種→種まき
(C) 次のものは、それぞれ他の一定のことに言いかえる。		彼此移用	→相互移用
印	類→印形, 印	彼此流用	→相互流用
淫行	→みだらな性行為	七首	→あいくち
曳船	→ひき船	封	緘→封
捺印	→押印	瘋癲者	→精神病者
穩婆	→助産婦	俘虜	→捕虜
瑕疵	→きず, 欠陥	辺陲の地, 僻地	→へんびな土地
牙保	→周旋	輸贏	→勝敗
陷罪	→落し穴*	烙印	→焼印*
涵養	→養成, 育成	鄰佑	→隣人
毀損	→損傷	聲	→つんば
羈束	→拘束	狼狽	→ろうばい, あわてる
義捐	→救援, 援助	(その他今後用いないもの)	
救恤	→救援	溢水	
橋梁	→橋	瘖啞者	
牽連	→関連	河津	
股分	→持分*	滌濯	
鑿井	→井戸掘り	膠沙	
卸任	→解任	出捐	
首魁	→主謀者	賦盤	
		借窃	

梳 理  
攀 越

(D) 当用漢字表にない漢字を用いた専門用語等であって、他に言いかえることはなく、しかもかなで書くと理解することができないと認められるようなものについて

は、その漢字をそのまま用いてこれにふりがなをつける。

硯 素  
齒 齒  
齒 齒  
禁 緇

第 5 当用漢字表にあっても、かなで書くもの

虞 れ  
恐 れ } おそれ

且 つ→かつ

従って(接続詞)→したがって

但 し→ただし

但 書→ただし書\*

外 →ほか

又 →また

因 る→よる

(編者注 一 この「法令用語改正要領」の送りがなは、「法令用語の送りがなのつけ方」〔昭和 34 年 12 月 4 日 法制局総発第 134 号〕によらず、原文のままにしてある。送りがなの問題になるものについては、適宜\*印を付しておいた。なお、法令では、促音の「っ」や拗音の「ゃゅょ」は小書きしない。)



## 五十音順用字用語例

(文部省「用字用語例」)

内閣法制局「法令用語改正要領」の用例を五十音順に配列し、文部省「用字用語例」に加えた。

文部省「用字用語例」は、文部省で公文書を作成する上の参考にするため、問題となる漢字・漢語について、その言いかえ・書きかえの基準を示したものである。Aは当用漢字にない字、Bは当用漢字音訓表に音または訓の認められていない字、Cは当用漢字表・同音訓表にはあるが「公用文作成の要領」(内閣通達)によってかな書きが適当とされているものである。なお、書きかえ例のカッコ「( )」内のもは、やむをえない場合以外は使わないことにする。摘要欄のカッコ「[ ]」内にかたかな書きで示したものは、編者が新たに加えたものである。

内閣法制局「法令用語改正要領」の用例については、その分類にしたがって、「第1同音語は、(A)一般的でないものは、今後他の表現を考える。(B)双方ともよく用いられてまぎれやすいものは、そのうちの一方または双方を一定の形に言いかえて用いる。(C)統一して用いる。(D)そのまま用いる。」「第2似た意味のことばは統一して用いる。」「第3意味の通じにくい、むずかしいことばは(A)表現が簡単すぎてわかりにくいから、一般に通じやすい表現に改める。(B)似た意味の漢字を重ね合わせてしいてむずかしく作られているから、それぞれわかりやすい日常語に改める。(C)わかりやすい外来語に改める。(D)その他、漢語の使用は、できるだけ避けて、それぞれ他のわかりやすい表現に改める。」「第4当用漢字表・同音訓表にはずれた漢字を用いたことばは(A)かな書きにしても誤解のおこらないことばはかなで書く。この場合かなの部分に傍点をつけることはやめる。(B)当用漢字表・同音訓表にはずれた部分は、それぞれ一定の他の漢字に改めて書く。(C)それぞれ他の一定のことばに言いかえる。(D)当用漢字表にない漢字を用いた専門用語等であって、他に言いかえることばがなく、しかもかなで書くことができないと認められるようなものについては、その漢字をそのまま用いてこれにふりがなをつける。」「第5当用漢字表にあっても、かなで書くもの」を、1 A・1 B・1 C・1 D, 2, 3 A・3 B・3 C・3 D, 4 A・4 B・4 C・4 D, 5の符号で示し、文部省「用字用語例」の用例と区別した。改正要領の用例についても、カッコ「[ ]」内に適当に読み方・意味などを示し、カッコ「( )」内に説明をつけた。

同音の漢字の書きかえについては、国語審議会「同音の漢字による書きかえ」参照。

(あ～)

(あ～)

字 句	言いかえ・書きかえ例	摘 要	字 句	言いかえ・書きかえ例	摘 要
	[あ]		A 読える	あつらえる, 注文する	
A 挨拶	あいさつ		A 宛	あて	あて名, ... あて
B 生憎	あいにく		4 A (宛名)	あて名	
A 曖昧	あいまい, 不 確実		B 後	あと	あとで…… する
A 相俟って	あいまって		B 強 ち	あながち	
A 隘路	支障, 困難, 障害		B 貴 方	あなた	
B 取て	あえて	あえて…… する	4 A (阿片煙)	あへん煙	
A 煽る	あおる	戸があく, 戸をあける	4 B 剩す	余す	
B 開く	あく, あける		B 剩さえ	あまつさえ	
A 飽迄	あくまで	……したあ げく	B 過く,	あまねく	
B 挙句	あげく	一例をあ げると, 国 をあげて	C 余りに	あまりに	……したあ まり, あま りにも, 余 り [名詞]
B 挙げる	あげる	あずかって 力がある, 相談にあ ずかる	B 過つ, 誤つ	あやまつ	あやまって ……する, あやまち, 誤り
B 与る	あずかる		B 予 め	あらかじめ	
A 恰も	あたかも		B 非 ず	あらず	
C 当たり前	あたりまえ	……にあた り, …… にあたっ て	B 凡ゆる	あらゆる	
C 当たる	あたる		所有		
B 彼方	あちら		B 在 処	ありか	
A 幹旋	あっせん, 周 旋, 世話		B 在 方	あり方	
4 A あっ旋	あっせん		C 有 難い	ありがたい	
			A 或	ある	
			B 在 る	ある	
			A 或 は	あるいは	
			B 酒 精	アルコール	

## 五十音順用字用語例 (あ～い)

## (い～)

字 句	言いかえ・ 書きかえ例	摘 要	字 句	言いかえ・ 書きかえ例	摘 要
B併せて	あわせて	あわせてお 願います	B頂 く	いただく	……してい ただく
	[い]		3 B遺脱	し忘れる	判断を遺脱 判断をし 忘れる
4 D蘭	蘭		C至って	いたって	いたって… …である
A云 う	いう (言う)	……という こと	[副詞]		
A雖 も	でも、であっ ても		B到 る	至る、いたる	
3 D威嚇	(用いない。)		C一時に	いちじに	
B如 何	いか、いかが	いかに、い かほど、 いかなる	[副詞]		
1 A委乗	(用いない。)	遺棄 (これ は、この まま。)	B一途に	いちずじに	
C行 く	いく	……(し)て いく	C一 番	いちばん	いちばん 下、一番 [名詞]
C幾 つ	いくつ	いくつ、い くら、い くらか	[副詞]		
B不可い	いけない		A移 席	移席	
A些か、	いささか、少		B何 時	いつ、いつも	
聊か	し、わずか		C一 向	いっこう	
4 B慰藉	慰謝料		C一 切	いっさい	
A椅 子	いす		C一 緒	いっしょ	
A孰 れ	いづれ		4 C溢水	(用いない。)	
B何 れ	いづれ		[イッ スイ]		
3 A医籍	医師名簿		A一齊に	いっせいに	
B抱く、	いだく		C一 層	いっそう	
懐く			A一 旦	いったん	
B致 す	いたす		C一杯に	いっばいに	〇月いっば いに
B出 す	いだす	申しいで	[副詞]		
B徒 に	いたすらに		C一遍に	いっぺんに	いっぺんに ……する
			[副詞]		
			3 B違背	違反	
			C今 更	いまさら	
			B未 だ	いまだ、まだ	
			A苟 も	いやしくも	
			A愈	いよいよ	
			A意 惑	意欲	

(い～え)

(え～お)

字 句	言いかえ・ 書きかえ例	摘 要	字 句	言いかえ・ 書きかえ例	摘 要
C居る	いる, おる	【おるハ音 訓妻ニナ イ】 ……(シ)て いる	4 C曳船	ひき船	お……, お 願いま す
B種々な	いろいろな		3 D間歴	経歴	
C色々な	いろいろな		4 B苑地	園地	
A翻ば	いわば		3 C堰堤	ダム	
A所謂	いわゆる			【お】	
B況や	いわんや, い うまでもな		B御	お	
4 C瘠瘠 者【イン アシ ャ】	く (用いない)		A於て	おいて, おけ る	
4 C印頼	印形, 印		C大 方	おおかた	
4 C淫行	みだらな性行 為		C大 勢	おおぜい, おお ぜい	
3 B隠蔽	隠す		B概ね	おおむね	
3 B湮滅	なくする, 隠 滅	B大 凡	おおよそ		
A吋	インチ 【ら】	A御 陸	おかげ	おかげで… 【陰(イン かげ)ハ アル。】	
B得る	うる	【陰】			
A謳う	うたう	3 B汚穢	よごれ	印を押す	
B中	うち	A擦す	押す		
B恭しい	うやうやしい	B遅い,	おそい		
A迂路	回り道	晩い			
A云々	うんぬん, か くかく, し かじか 【え】	C恐らく	おそらく		
3 D永期	長期	C虞れ	おそれ		
		5 {虞れ 恐れ}	おそれ		
		A追而,	おって		
		追って			
		A音沙汰	たより, 音信, おとさた		
		B大 人	おとな, おと なしい	【自ら(ミ ズカラ) ハアル。】	
		B自 ら	おのずから		

五十音順用字用語例 (お～か)

(か～)

字 句	言いかえ・ 書きかえ例	摘 要	字 句	言いかえ・ 書きかえ例	摘 要
A 夥しい	おびただしい		1 A 開議	(用いない。 たとえば、「会 議を開く」と する。)	会議 (これ は、この まま。)
B 思召し	おぼしめし		3 D 解止	(用いない。)	
B 覚束無い	おぼつかない		1 A 成示	(用いない。)	明示 (これ は、この まま。)
B 面白い	おもしろい		3 B 灰燼	灰	
B 主に	おもに		A 回 漕	回送	
B 赴く	おもむく		3 B 開陳	述べる	
B 徐ろに	おもむろに		1 C (改定 2 (改訂	改定	
B 思 惑	おもわく		1 B 改任	改めて任ず る、交代	解任 (これ は、この まま。)
B 慮る	おもんばかり		3 B 開披	開く	
B 凡そ	およそ		B 却って	かえって	
C 及び	および、(及 び)	甲および乙	A 罷る	かかる	病氣にかか る
C 折り	おり、おりお り	……したお り	A 斯る	このような	
C 折柄	おりから		B 関る、 係る	かかる	……にかか ることは
B 居る	おる	……してお る	B 拘る	かかわる	……にもか かわらず
C 愚か	おろか	……はおろ か	A 垣	かき	竹がき
[副詞句]			A 鍵、鉤	かぎ	
B 疎か	おろそか		C 客 年	昨年、去年	
B 了	終り、おわり		A 賭け事	かけ事、ばく ち	
4 C 穩婆	助産婦 [か]		3 D 加功	(用いない。)	(「加功」ハ 犯罪ヲ手ツ ダウ行為)
4 D 蟻	蟻		4 C 河津	(用いない。)	
A ケ	か、(箇)	○か月、○ 月、○月間 ○か年、 ○年、○ 年間	A 瓦斯	ガス	あのかた、 あなたがあ た、あつ せん方
A 甲 斐	かい	……したか いがあっ て	C ……方	……かた、が た	
3 B 拐引	かどわかす				
4 B 外廓	外廓				

(か～)

(か～)

字 句	言いかえ・ 書きかえ例	摘 要	字 句	言いかえ・ 書きかえ例	摘 要
A旁々	かたがた	お礼かたが た	C構わな い	かまわない	
C片仮名	かたかな		C我 慢	がまん	
A忝ない	かたじけない		C……か も知れ ない	……かもし れない	
B辱 い	かたじけない		B仮初に	かりそめに	
B片附け る	かたづける		C彼	かれ	
B傍	かたわら		B彼 等	かれら	
C……勝	……がち		A苛 烈	はげしい、き びしい	
C且	かつ、(且つ)		C辛うじ	かろうじて	
5且 つ	かつ		て		
A劇期的	画期的		B為 普	かわせ	
C括 弧	かっこ	A瓦	かわら		
A褐色	かっ色	3 A勸解	和解勸告、和 解をすすめ る		
A蒼 て	かつて	B鑑みる	かんがみる		
C勝手に	かってに	1 B 監護	監督保護	看護 (これ は、この まま)	
A活 潑	活発、かっぱ つ	3 A			
A華 道	花道	3 B杆止	(土砂の～)止 め、防止	看守 (これ は、この まま)	
C仮 名	かな	1 A監守	(用いない)	看守 (これ は、この まま)	
B協う、 適う	かなり	1 B管守	保管	看守 (これ は、この まま)	
B彼 方	かなた	1 B管掌	つかさどる	干渉 (この は、この まま)	
B仮名遣	かなづかい	1 C {干渉 干渉	干渉	干渉 (この は、この まま)	
A可 也	かなり	3 B勸奨	すすめる		
B可 成	かなり	A肝 腎	かんじん		
B予 て	かねて	C肝心な	かんじんな		
C彼 の	かの	4 C陥穽	落[と]し穴		
4 C瑕疵	きず、欠陥				
4 C牙保	周旋				

「彼女」はよ  
使つてよ

## 五十音順用字用語例 (か～き)

## (き～く)

字 句	言いかえ・書きかえ例	摘 要	字 句	言いかえ・書きかえ例	摘 要
4 C 溶滞	(用いない。)		A 稀 薄	希薄, うすい	
1 C { 四与 千与 千預	関与		B 厳しい	きびしい	
A 4 C 函養	養成, 育成		C 寄 附	寄付	
1 B 監理	監督管理	管理 (これは, このまま。)	3 B 欺罔, 欺瞞	だます	
	[き]		4 C 救恤	救援	
1 B 基因	もとづく, 基 [づ]く	起因 (これは, このまま。)	A 旧 臘	昨年末	(なるべく「昨年12月〇日」というようにはっきり書く。)
4 C 義捐	救援, 援助		3 B 狹隘	狭い	
3 B 毀壞	そこなう		4 B 饜応	供給	
B 氣懸り	気がかり		3 B 驚愕	驚く	
3 C 汽蹴	ポイラー		4 A 恐喝	きょうかつ	
1 A 技監	(用いない。)	技官 (これは, このまま。)	3 B 享受	受ける	[法令デハ 拗音ノヤ・ ユ・ヨハ小 サク書カナ イ]
3 A 毀棄	損壊又は廃棄		4 C 橋梁	橋	
3 B 希求	こいねがう		4 B 魚船	魚倉	
1 C { 規制 規正 規整	規制		3 A 漁撈	水産動植物の 採捕	
4 C 拘束	拘束		A 嫌 う	きらう	
A 毀 損	破損, 損傷		1 C { 規律 紀律	規律	
4 C 毀損	損傷		B 極めて	きわめて	きわめて大 きい
B 来 寸	きたす	支障をきたす	4 D 禁錮	禁錮	
B 来 る	きたる	きたる〇月〇日	A 僅 少	わずか, 少し	
4 B 吃水	喫水		A 秆	キロメートル km, (キロ)	
1 B 規程	規則	規定 (これは, このまま。)	A 砵	キログラム, kg, (キロ) [く]	
			3 C 空気 槽	空気タンク	

(く～け)

(け～こ)

字 句	言いかえ・ 書きかえ例	摘 要	字 句	言いかえ・ 書きかえ例	摘 要
B崩れる	くずれる		A蓋し	けだし、たぶ ん、おおかた	
C…下さ い	…ください (下さい)		C結構だ	けっこうだ	
3 B掘鑿	掘る		4 B闊席	欠席	
[クッ サク]			1 A減価	(用いない。た とえば、「減損 額」とする。)	原価 (これ は、この まま。)
3 B具有	有する		3 B喧騒	騒がしい、や かましい	
C位 [副 詞句]	くらい	どのくら い、これ くらい	A幻 灯	幻燈	
B較べる	比べる		4 C牽連	閃連 [こ]	
4 A庫裏	くり		4 A強姦	ごうかん	
C来 る	くる	うまくなっ てくる 〔人が来る〕 ノロウナト キニハ用イ テヨイ。)	3 B滯環	みぞ	
			1 B公告	公示	広告 (これ は、この まま。)
			1 D { 広告 抗告 }	(いずれも、 そのまま用い る。)	
B異々も	くれぐれも		4 C膠沙	(用いない。)	[座 礁ノ 意。]
B異れる	くれる	…してく れる	[コウ サ]		
A互	グラム、g [け]		4 B交叉	交差点	
4 B繫船	係船		A斯うし	こうして、こ うした	
1 D { 継続 係属 }	(いずれも、 そのまま用い る。)		4 B扣除	控除 [コウ ジツ]	
A 4 B 繫属	係属		1 B { 更正 再生 }	訂正、修正 再建、再起	厚生 (これ は、この ま。)
A啓 蒙	けいもう、啓 発		1 C { 交代 交代 }	交代	
1 D { 経理 計理 }	経理		2 { 交代 交代 }	交代	
4 B繫留	係留		A広 汎	広範、広い	
A桁	けた	三けた			
3 B懈怠	怠り				



五十音順用字用語例 (こ～)

(こ～さ)

字 句	言いかえ・ 書きかえ例	摘 要	字 句	言いかえ・ 書きかえ例	摘 要
A 弘報	広報		4 A 此	この	
4 B 蒙 る	こうむる		3 B 戸扉	戸	【戸扉ハ 音「コヒ」】
C 被 る	こうむる		A 誤謬	誤り	
A 昂 揚	高揚		3 U		
3 D 行用	行使		4 C 股分	持[ち]分	
B 超える	越える		4 A 芥溜	ごみため	
C 極 く	ごく	ごく新しい	4 B 雇傭	雇用	
A 此処、	ここ		A 之	これ	
茲			4 A 之	これ	
B 心 懸	心がけ	心がける	B 是	これ	
A 拵える	こしらえる		A 頃	ころ	このごろ、 ○日ごろ
B 拵って	こぞって		4 A 昏酔	こんすい	
B 応える	こたえる、答 える		A 根 柢	根柢	
3 C 骨牌	かるた類			[さ]	
C 事	こと	……すること (事物 をさすと きは使っ てもよ い。)	1 D { 債券 債権	(いずれも、 そのまま用い る。)	
B 如 く	ごとく、よう に		A 過 る	さかのぼる	
A 悉 く	ことごとく		1 B 詐偽	偽り	詐欺(これ は、この まま。)
B 殊 更	ことさら		A 襦に、	さきに	
B 殊 に	ことに		襦に		
B 毎 に	ごとに	…ごとに、 一年ごと に	[副詞]		
B 殊の他 (外)	ことのほか		B 先 程	さきほど	
B 詞	ことば		1 C { 作成 作製	作成	
C 言 葉	ことば		4 C 鑿井	井戸掘り	
A 此、之 の	この	このたび	[サク セイ]		
			A 些細な	ささいな、わ ずかな	

(さ〜)

(さ〜し)

字 句	言いかえ 書きかえ 例	摘 要	字 句	言いかえ 書きかえ 例	摘 要
B支える	ささえる		C更に	さなにな	
A捧げる	ささげる		C去る	さる(去る)	さる〇日
A挿画	さし絵		B障り	さわり	さしさわり
C差し上げる	さしあげる		B触る	さわる	
C差し当り	さしあたり		A参	参照, 参考, 考慮	
B差し障り	さしざわり		1C〔参酌的 参酌〕	参酌	〔雨ハ、当 用漢字、補 案ニヨル。〕
B折函	さしず		3A蚕蜘蛛	蚕のさなぎ	
C差め	さしずめ	〔Bトモ〕	[サン ヨウ]		
C差し出	さし出す	差し出し人 差し出人			
B差し支	さしつかえ				
C差し向	さしむき		B強いて	しいて、しい る、むりに	
B差し遣 わす	さしつかわす	〔サケンス ルニハ「差 遣する」ト 昔ク。〕	A斯界	この方面、大 方	
B流石に	さすがに		B然し、	しかし	
A嚙	ささぞ		併し		
A沙汰	さまた	ごぶさた	A罷して	しかして、し こうして	
4B散水管	散水管	〔撒ハ音 「サツ」。〕	A併年、	しかしながら	
B早速	さっそく	〔早(ソウ→ サツ)ト考 エルトC〕	然年		
A撒	希	散希	C仕方	しかた	
A扱	さて		A加之	しかのみなら ず	
B却説	ささて		A而も	しかも	
2〔左の 次〕	次の		B然るに	しかるに	
A捌く	さばく		B然らざ る	さうでない	
B戔く	ささばく		C直に	じきに、すぐ に	
B左程	さほど		A頻りに	しきりに	
C様々	さまざまに		C仕組	しくみ	
3B鎖鑰	さかさ				
〔サ ク、鑰 ク、鑰 ク〕					

## 五十音順用字用語例 (し～)

## (し～)

字 句	言いかえ・ 書きかえ例	摘 要	字 句	言いかえ・ 書きかえ例	摘 要
A 刺 戟	刺激		A 車 輛	車両	
2 { 越 意 旨 越 旨 越	越旨		2 { 越 意 旨 越 旨 越	越旨	
C 始 終	しじゅう		3 D 事由	(用いない。)	
3 B 枝条	枝		2 正 當 な 理 由	正当な理由	
C 次第に	しだいに	……するし だいであ る(「式次 第」など [名詞]の ときは 使ってよ い。)	A 什 器	器物	
			A 充 填	うめる、つめ る	
C 5 従って	したがって		C 充 分	じゅうぶん、 (十分)	
[接続 詞]			4 C 輸 贏	勝敗	
B 認める	したためる		[シュ エイ]		
3 D 疾病	病気		4 C 首魁	主謀者	
C ……し	……してみる		[シュ カイ]		
て見る			1 C { 主 管 者 { 主 幹 者	主管者	
A 斯 道	この道		3 C 酒 精	アルコール	
A 屢 ャ	しばしば		3 B 鬚 髯	ひげ	
B 暫 く	しばらく		4 C 出 捐	(用いない。)	
B 了 り	しまり	……してし まり	3 D 輸 納	提出	
C 仕舞う	しまり		[シュ ノウ]		
C 始末す る	しまつする	(「始末書」 には使って よい。)	[ユノ ウ]		
A × 切	締め切り、し めきり		4 B 醇 化	純化	
B 閉める	締める	戸を締める	A 竣 工	しゅん工、落 成、完工	(「竣功」は 使わない。)
3 B 遮断	とめる		4 C 竣 功	完成	
4 C 卸任 [シャ ニン]	解任		3 B 遵 守	守る	
			3 D 賜 与	(用いない。)	

(し～)

(し～す)

字句	言いかえ・書きかえ例	摘 要	字句	言いかえ・書きかえ例	摘 要
A 附 余	その他, そのほか		3 B 塵埃	ほこり	
4 C 傷痕	傷病		1 C (侵害) (浸害)	侵害	
4 B 障害	障害		3 B 塵芥	ごみ	
1 D (障害) (傷害)	(いずれも, そのまま用いる。)		4 C 塵芥	ごみ焼き場, 焼却場	ごみ焼却場
3 D 召唤	呼[び]出し		4 C 神祠	ほこら	
3 B 焼燬	焼く		A 眞 摺	眞摺, 熱心	
1 C (消却) (銷却) (償却)	消却		A 尉 酌	まじめ 手かげん, 手ごころ, 取捨, しんしゃく	
1 C (状況) (情況)	状況		1 C (参酌) (斟酌)	参酌	
1 C 常況	常の状況		3 B 申述	述べる, 申[し]立[て]	
1 C (招集) (召集)	招集		A 4 B 侵蝕	侵蝕	
B 上手	じょうず		A 甚 大	多大	
2 (証換) (徴換) (証憑) (証憑)	証換		4 C 鉢盂	(用いない。)	
3 C 橋頭	マストロップ		A 4 B 訊問	尋問	
A 証 憑	証換		3 B 尽了	終[わ]る [す]	
1 B (証聚) (証標) (証憑)	証明書, 証片, 証紙, 徴票, するし	商標(これは, このまま)	C 随 分	ずいぶん	
C 丈夫な	じょうぶな		A 趨 勢	大勢, 形勢, 傾向, なりゆき	
3 B 牆壁	しきり		A 措 置	すえおき	
A 爾 来	以来		B 直 に	すぐに	
B 斥ける	退ける		B 勝れる	すぐれる	
3 B 思料	考える			優れる	
B 記す, 誌す, 印す	しるす		A 渺 々	少なく, すくなく	
B 察 人	しろうと		A 傾 々	すこぶる	
A 察 人	しわ				
B 仕 業	しわざ				

## 五十音順用字用語例 (す～せ)

## (せ～そ)

字 句	言いかえ・ 書きかえ例	摘 要	字 句	言いかえ・ 書きかえ例	摘 要
A宛、つ つ	ずつ	一つずつ、 少しずつ	4 B洗濯	洗浄	
C既 に	すでに		[セン デキ・ センジ ョウ]		
B即 ち	すなわち		A煽 動	煽動	
B総て、 凡て	すべて		A全 貌	全容、全体	
B速かに	すみやかに [せ]		A櫃	センチメート ル, cm, (セ ンチ)	
1 B成規	所定	正規 (これ は、この まま。)		[そ]	
A逝 去	死去、永眠、 他界		1 C(総括 総轄)	総括	
A制 禦	制御		A綜 合	総合	
3 B成造	作る		3 B送致	送る、送付	
3 D成丁 者	成年者		A装幀、 装釘	装本、装丁	
C折 角	せっかく		3 B藏匿	かくまう	
C切 に	せつに		A聰 明	賢明、かしこ い	
3 D窃用	盗用		A挿 入	そう入、さし 入れ、はさ む、さし込む	(加筆)
C是 非 [副詞]	ぜひ	ぜひお願い します、是 非[名詞]	3 B齟齬	くい違い	
C是非共 [副詞]	ぜひとも		4 C蔬菜	野菜	
A栓	せん	消火せん	A		その他、そ のほか、 それゆえ
A詮(詮) 議	配慮、選考、 審議		4 A其	その	
3 C船渠	ドック		B傍、側	そば	
A詮(詮) 衡	選考、選定		C粗末な	そまつな	
4 C僭窃 [セン セツ]	(用いない。)		4 B疏明	疎明	
			B抑 も	そもそも	
			4 C梳理	(用いない。)	(音ソリ)

(そ〜た)

(た〜)

字句	言いかえ・書きかえ例	摘要	字句	言いかえ・書きかえ例	摘要
B夫れ	それ	[くしけずのりをとのえ意。] それぞれ、それゆえ、それら	C但し	ただし、(但し)	わたくしたち
A揃り	そろり [た]		5但し 5但書 B違	ただし ただし書[き] たち	
B…度い	…たい、…たく	願いたい、 くだされ たく	A忽	たちまち	優勝たて 優勝たて …という たてまえ
C大概	たいがい		3B脱漏 A柄 B盾 C建て前	もれ たて たて たてまえ	
3B隊伍	隊		B仮令	たとい	本だな、戸 だな
C大して	たいして		B例えば	たとえば	
C大丈夫だ	だいじょうぶだ		A棚	たな	
3B堆積	積[も]る		B類母し	たのもしい	このたび、… …(する) たびに
C大切に	たいせつに		い		
C大厩	たいそう		4A煙草	たばこ	たために、… …のため
C大体	だいたい		B度	たび	
C大抵	たいてい		B度々	たびたび	たために、… …のため
A撞頭	出現、進出、 登場		C多分	たぶん	
C大分	だいぶん、だ いぶん		B為	ため	たために、… …のため
C大変	たいへん		4A為	ため	
3D代務者	代行者		A駄目	だめ	たために、… …のため
C沢山	たくさん		B試す	ためす	
B文	たけ、だけ	…だけは	A誰	だれ	たために、… …のため
C出す (はじめ る意)	だす	…(し)だ す	3C端舟	ポート	
A只	ただ		C段々に	だんだんに	たために、… …のため
B唯	ただ		[副詞]		
			A煖房	暖房	たために、… …のため
			B打	ダース	

五十音順用字用語例 (ち〜つ)

(つ〜て)

字 句	言いかえ・書きかえ例	摘 要	字 句	言いかえ・書きかえ例	摘 要
	[ち]		3 D通事	通訳人	
A近頃	近ごろ		A通牒	通達	
C千切る	ちぎる		B造す	つかわす	さしつかわす
A知悉	よく知る		2 {左の 次の	次の	
B因に	ちなみに、ついでに		B就く	つく	職につく、就職
B因む	たよる、つながる		B附ける	付ける	付け替える、○月○日付け
3 B治癒	なおる		A綴る	つづる、とじる	
A註	注		C都度	つど、(都度)	そのつど、
A註文	注文		B努めて	つとめて	
A帳尻	帳じり		B努める	努める、勤める	務め[名詞]
1 B調製	作成	調整(これは、このまま。)	A繋る	つながる	
C丁度、頂度	ちょうど	[チョウフ。布ハ付トモ書イタ]	A陸く	つまずく	
A貼布	はる、はり付ける	密度が高い	B詳に、審に	つまびらかに、詳細に	
4 C貼付	はりつける			[て]	
A稠密	密、密集、周密		4 B定繫港	定係港	
4 C稠密	周密		1C {提示 呈示}	提示、示す	
B一寸、島波	ちょっと		1C {提出 呈出}	提出	
A沈澱	ちんでん		A抵触	抵触、ふれる	
4 A (沈澱池)	ちんでん池		4 C抵触	ふれる、抵触	
	[つ]		4 C堤塘	堤	
B遂に	ついに		C丁率に	ていねいに	
B就いては	ついては		1C {定年 停年}	定年	
B序に	ついでに				

(て〜と)

(と〜)

字句	言いかえ・書きかえ例	摘要	字句	言いかえ・書きかえ例	摘要
4 B 淀泊	停泊		A 兎角	とかく、とにかく	
B 手後れ	手おくれ		C 時(場合の意)	とき	……するとき, 時[名詞]
B 手懸, 手掛	手がかり		C 薦と	とくと	とくと考える(なるべく「慎重に……する」のようを使う)
B 手際	手ぎわ		B 何処	どこ	
C 出来る	できる, できあがる, できごと		B 処	ところ	……したところ, ところで, 所(場所を示す場合)
A 手頃	手ごろ		4 A 屠殺	とさつ	
A 手筈	手はず		4 A と殺	とさつ	
C 手引	手びき		A 綴じる	とじる	紙をとじる, 閉じる(門を閉じる)
B 手許	手もと		A 逆も	とても	
4 B 転覆	転覆		4 A 賭博	とばく	
4 C 填補	うめる		B 止める	とどめる	
4 C 狐末	始末, 事の経過		留める		
	[と]		C 共に	ともに	……とともに, 今後とも
1 C {統括統轄}	統括		B 取り取えず	とりあえず	
A 洞察	見通し, 見抜く		A 取り纏め	とりまとめ	
3 B 禱祀 [トウシ]	祈[り]		B 取り止め	とりやめ	
3 B 盗取	盗む		A 取り纏め	とりまとめ	
A 全上	同上, 上に同じ, 同様		B 取り止め		
C 到底	とうてい				
C 到頭	とうとう				
A 陶冶	鍛練, 訓練, 養成, 育成				
C 通り	とおり	そのとおり, .....どおり, 通り[名詞](銀座通り)			



五十音順用字用語例 (と～な) (な～は)

字句	言いかえ書きかえ例	摘 要	字句	言いかえ書きかえ例	摘 要
A弗	ドル		C何	なん	なんでもな い、なん にも、な んのこと か
A噸	トン				
	[な]				
A乃至	ないし、から ……まで		B何等	なんら [に]	
A尚	なお	なお……, なおさら	A賑	うにぎわう	
B猶	なお	なおさら	B難	いにくい	…しにくい
B永	い長い		B担	うになう	
C中	々なかなか		A腕	むにらむ	にらみ合 わせる
B却	々なかなか		A俄	ににわかに [の]	
A乍	らながら	……ながら	A膺	裡頭の中	
B就	中なかんずく, なかでも		B逃	ずのがす	
B為	すする	……する	B除	けるのける	
B何故	なぜ		B則	り基づいて、従 って、よっ て、即して、 のっとり	
A 4C捺印	押印		A香	むのむ	案をのむ
B等	など	(「トウ」と説 むときは使 ってよい。)		[は]	
B何卒	なにとぞ		A把握	握る、とらえ る、つかむ、 理解、は握	
C何分	なにぶん		4C宛送	宛春	
C名前	名まえ、なま え		3D宛得	宛却代金、宛 上金	
A做り	ならう		1C(配布 配付)	配布	
C並びに	ならびに、(並 びに)		1C配賦	割[り]当[て]	
C成り立 つ	なりたつ、成 り立つ		B入	るはいる	
C成り行 き	なりゆき		C葉書	はがき	
B可成	なるべく				
B成程	なるほど				

(は～)

(は～ひ)

字 句	言いかえ・ 書きかえ例	摘 要	字 句	言いかえ・ 書きかえ例	摘 要
A抄る	はかどる		4 B蕃殖	繁殖	
B不図	はからずも		3 D版図	領域	
B許	ばかり	こればかり り、…… するばかり	C……を	……をはじめ	A は じ めBC… …、始 る(開始 の意)、初 め、初め て(最初 の意)
4 A 踏る	はかる				
1C {破壊	破壊			[ひ]	
4 B 破毀	破壊		B延いて	ひいては	
A漠然	ぼくぜん		は		
A莫大	ぼくだいな、 多大な		3 A 譚毀	名誉損傷	
A例 離	はがれる		A惹き起	ひき起こす	
A駁論	反論、反対論		こす		
A狭む	はさむ	はさみ込む	B日 毎	日ごと	
4 C 播種	種まき		A日 頃	日ごろ	
[ハシ ユ]			C久し振	久しぶり	
A筈	はず		り		
B外れる	はずれる		4 C 彼此	相互移用	
C果たして	はたして	はたして… …だ	移用		
[副 詞]			4 C 七首	あいくち	
A液 刺	はつらつ		4 C 彼此	相互流用	
C派手な	はでな		流用		
A拮 だ	はなはだ、は なはだしい		4 D 徹素	徹素	
A巾 幅			A只 管	ごたすら	
A彈 る	はばかる		A畢 竟	つまり、つま るところ	
B阻む	妨げる、ジャ まする		B日 附	日付	
4 C 攀越	(用いない。)		A必 須	必要	
[ハン エツ]			C一方な	ひとかたなら らぬ	
A類 瑣	わずらわしい		B一 入	ひとしお、い ちだんと	
			A齊しく	ひとしく	
			[副詞]		

五十音順用字用語例 (ひ～ふ) (ふ～)

字 句	言いかえ・ 書きかえ例	摘 要	字 句	言いかえ・ 書きかえ例	摘 要	
A一 揃	ひとそろい	(件名のと き「表記」は 使わない。)	C風 に	ふうに	……のふう に、こう いうふう に	
B一 度	ひとたび		B殖える	ふえる		
C一通り	ひととおり		増える			
B一先ず	ひとまず		B相応し	ふさわしい		
B一人、 独り	ひとり		い			
C一渡り	ひとわたり		C不充分	ふじゅうぶ ん、(不十 分)		
C表 記	標記		C附	付、付して	付記、付帯、 付置、付録 互、付録テ ラ「附」ラ 用イデル。	
(件名 をさす とき)						
A懇 換	よりどころ					
[ヒョウ キョ]						
2	証換					
(証換 証徴 懇換 証懇)						
1 B評決	議決		表決 (これ は、この まま。)	C附 随	付随、(附随)	不正 (これ は、この まま。)
				1 A不整	(用いない。)	
1 C	表示			C附 則	付則、(附則)	
{表示 標示			C附 属	付属、(附属)		
A病 棟	病舎、病屋、 病とう		C不 断	ふだん 普段		
C平仮名	ひらがな		A符 牌	符ちょう、し るし		
B拡がる	広がる		A払 拭	一掃、除去、 取り去る		
A頻 度	出度、度数		B二 人	ふたり		
A頻繁に	ひんぱんに		C不 図	ふと		
3 B紊乱	乱す		C振仮名	ふりがな		
3 B側諒	あわれむ [ふ]		4 C俘虜	捕虜		
4 C封緘	封		A雰囲気	ふんい気、空 気、気分、 情勢		
4 C瘋癲 者	精神病者					

(ふ～ほ)

(ほ～ま)

字句	言いかえ・書きかえ例	摘要	字句	言いかえ・書きかえ例	摘要
A 吹	フィート [へ]		1 B 法例	準拠法令、法令の適用関係	法令(これは、このまま。)
A 僻地	へき地	……すべき	4 A (珠耶鉄器)	ほうりろう鉄器	
B 可	べき		B 他	ほか	そのほか
B 下手	へた		C 外	ほか	そのほか、するほか、ほかに
B 部屋	へや		1 B 補佐人	補助者、補助人	保佐人(これは、このまま。)
A 編集	編集		B 欲しい	ほしい	……してほしい
A 編輯	編集		4 B 補助	補助	
4 C 辺陔の地、僻地	へんびな土地		3 D 没取	国庫に帰属させる	
A 鞭壁	激励、はげます、べんたつ		A 補填	補充	
A 編綴	つづる		B 程	ほど	
[ヘンテツ]			A 殆ど	ほとんど	
3 B 編綴	とじる、とじ合わせる		B 略	ほほ	
A 返戻	返却、返す		A 本棚	本だな、書架	
A 頁	ページ [ほ]		C 本當に	ほんとうに	
A 哺育	保育		B 封度	ポンド	
C 方	ほう	……のほう		[ま]	
4 B 拋棄	放棄		A 進進	突進、つき進む	
A 俸給	ほう給		A 賄う	まかなう	
3 B 居室	室、へや		B 間際	まぎわ	
1 B 報奨	奨励	報償(これは、このまま。)	A 真に、突に、誠に	まことに	誠[名詞]
A 巷大	膨大、多大		B 將に、正に、方に	まさに	
A 茫漠	ぼくぜん、とりとめない				
3 B 包裹	包み				

五十音類用字用語例 (ま～み) (み～む)

字句	言いかえ・ 書きかえ例	摘 要	字句	言いかえ・ 書きかえ例	摘 要
B勝る、 優る	まさる		A磨く	みがく	
B況して	まして		B見極め る	見きわめる	
B真面目	まじめ		A罫	みぎり、その おり	
B先ず	まづ		C見事、 美事な	みごと、みご とな	
B益々	ますます		A未曾有	かつてない、 空前の、は じめての	
C又	また、(又)	「マタハ」 ハ「又は」 ト書ク。	B充たす	満たす	
5又	また		A妄に	みだりに	
B来だ	まだ		B濫に	みだりに	
B街一 町	まち		B路、途 徑	道、みち	
C間違	まちがう		A見做す	みなす	
A俵つ	まつ	あいまって	B見難い	見にくい	
3 B拭消	消す、消除		B見逃す	見のがす	
B完了す る	了する		B視、看、 覽、視	見る	
A迄	まで	〇日まで	C見る	みる	……(L)て みる
A纏める	まとめる		(試み る意)		
B真到	まね	そのまま	A尺	ミリメート ル、mm、 (ミリ)	
A儘	まま		A筵	ミリグラム、 mg、(ミリ) [む]	
C侘もな く	まもなく		B穿る	むしろ	
A稀に	まれに		B難しい	むずかしい	
A廻	回る、回す		C無造作	むぞうさに	
3 D満眼 に達す る	満了する		に		
B真中	まん中		A無駄	むだ	
A哩	マイル [み]				
B御	み	み国、み代			
B見出す	見いだす				

(む〜も)

(も〜や)

字 句	言いかえ・ 書きかえ例	摘 要	字 句	言いかえ・ 書きかえ例	摘 要
B空しい 虚しい	むなしい		A尤 も B専 ら A戻 す	もっとも もっぱら もどす	払いもどし、 もどし入 れ
A棟 B無暗に	むね、屋、舎 むやみに 〔め〕		B固より	もとより	……はもと より
C目当て A酩酊 C銘々に A明瞭	目あて 酔う めいめいに めいりょう、 明白、明確、 はっきり		B最 早 B最 寄 A貫 う	もはや もより もらう	……しても らう
B眼鏡 B目指す C滅多に B目出度 い	めがね めざす めったに めでたい	[音読テハ 「ガンキョ ウ」、一種ノ 熟語訓。]	A洩らす 泄らす B諸々 C申し合 わせ、 申し合 わせる	漏らす、漏れ る もろもろ	申し合わせ、 申し合わ せる、申 し合わせ 事項、申 し入れ、 申し入れ る、申し 込み、申 し込む、 申込書 〔次官会 議申合・ 申合事項 ナドニ ハ、必ズ シモ送り ガナヲツ ケナイ〕
C面倒な 4 B緋羊 B米	めんどうな 緋羊 メートル、m 〔も〕				
C申し上 げる A網羅	申しあげる、 (申し上げる) もうら、全部 集める				
C目途 B目論見 C若し C若しく は A齎らす A勿論 B 4 A	目標、目あて もくろみ もし、もしも もしくは、(若 しくは) もたらす もちろん もって				
		……をもっ て	A難 て A喧しい 3 B鎖鑰 〔サヤ ク〕、鑰 匙〔ヤ クシ〕 A厄介な B廉 い	〔や〕 やがて やかましい かぎ	やっかいな 安い

## 五十音順用字用語例 (や~ゆ)

## (ゆ~よ)

字句	言いかえ・ 書きかえ例	摘 要	字句	言いかえ・ 書きかえ例	摘 要
B易 い	やすい	……しやす い	B緩 む	ゆるむ [よ]	
C矢張り	やはり	[Bトモ]、	A要 訣	要点	
B止める	やめる		3 B湧出	わき出る	
飛める			[ヨウシ ュツ]		
B止むを得ず	やむを得ず、 やむをえず		[ユウシ ュツ]		
A稍 やや	やや		3 B堵塞	ふさぐ	
B動もすれば	ややもすれば		[ヨウ ソク]		
B進 る	やる	やり方、や り直し	C様 だ	ようだ	……のよう だ、のよ うに
A碼 ヤール、ヤード	ヤール、ヤード [ゆ]		A節 人	よう人	[用 人 ト モ]
B由 籍	来歴、いわれ		3 B擁壁	かこい	
3 B誘拐	かどわかし		[ヨウ ヘキ]		
3 B宥恕	ゆるす		B漸 く	やうやく	
[ユウ ジョ]			C余計に	よけいに	
A悠 ヲ	ゆうゆう		[副詞]		
B故 ゆえ	ゆえ	ゆえに、 …のゆえ で	B汚れる	よごれる	
3 B隘越	越える		A仍って	よって	よって…す る、…… によって
B所 以	わけ、理由、方 法、ゆえん		B余 程	よほど	
A歪 む	ゆがむ、ゆが める		B自 (よ り— 起点を 示す)	から	○日から、 ……から ……まで (「よ り」 は比較の ときだけ に使う。 ○○より 少ない。)
B行 方	ゆくえ	ゆくえ不明			
3 B諭示	示す、さすとす				
3 C油槽	油タンク				
B委ねる	ゆだねる、任 せる				
A忽 せ	ゆるがせ				

(よ〜り)

(る〜わ)

字句	言いかえ・書きかえ例	摘要	字句	言いかえ・書きかえ例	摘要
B 拠所	よりどころ	これら、なわ んら、「ト説はよ れら」とときよ ウ」を使 い。	C 留守	るす、不在	[ル(留)ス (守)ノ音 ハアル。]
5 因る	よる		A 戻入	もどし入れ	(定額れい 入「戻」ハ 音「レイ」。)
B 宜しく	よろしく		A 連繫	連係、つながり	
宜敷く			A 煉瓦	れんが	
A 興論	世論 [ら]		4 A 聯合	連合	
B 4 A 等	ら		A 聯絡	連絡	
4 C 烙印	焼[き]印			[る]	
[ラク イン]			4 C 野	つんぼ	
4 B 落盤	落盤		A 籠球	バスケット ボール	
C ラヂオ	ラジオ		3 B 漏泄	漏らす	
A 濫觴	はじまり	[ロウ セツ]			
3 B 襁褓	ほろ	漏波	[ロウ エイ]		
[ラン ル]		4 C 狼狽	ろうばい、あ わてる		
C 立派に	りっぱに	[ロウ バイ]		[わ]	
A 諒解	了解	3 B 歪曲	ゆがめる		
A 諒承	了承、承知	[ワイキ ョク]			
A 罹病	発病、病気に かかる	4 A 猥褻	わいせつ		
A 流畅に	すらすらと、 よどみな く、りゅう ちように	4 A 賄賂	わいろ		
3 A 臨検	立[ち]入[り] 検査	A 呑	わが、われ	わが家、わ が因、わ れら	
4 C 鄰佑	隣人				
[リン ユウ]					



五十音順用字用語例 (わ～)

字句	言いかえ・書きかえ例	摘 要	字句	言いかえ・書きかえ例	摘 要
B我	わが	わが家, わが国	4 A興	わな	
1C(和解 和諧)	和解		A能る	わびる	
B分かる	わかる		A割り返し	割りもどし	
B判る			C我	われ	われら, われわれ
B介える	わきまえる				
A粹	わく				
B態々	わざわざ				
A僅に	わずかに				
A亘って	わたって	……にわたって			

# 国語審議会「同音の漢字による書きかえ」

(昭和31年7月5日国語審議会報告)

国語審議会は、当用漢字の適用を円滑にするため、当用漢字表にない漢字を含んで構成されている漢語を処理する方法の一つとして、表中同音の別の漢字に書きかえることを審議し、その結果、別紙「同音の漢字による書きかえ」を決定した。

当用漢字を使用する際、これが広く参考として用いられることを希望する。

(別紙)

## 同音の漢字による書きかえ

- 1 当用漢字の使用を円滑にするため、当用漢字表以外の漢字を含んで構成されている漢語を処理する方法の一つとして、表中同音の別の漢字に書きかえることが考えられる。ここでは、その書きかえが妥当であると認め、広く社会に用いられることを希望するものを示した。
- 2 同字で、単に字体の異なるだけのものも掲げてある。
- 3 字音の中には、いわゆる慣用音によったものもある。

(例) 礼明→糾明

(例) 撒水→散水

(例) 撒水→散水

矢印の左は当用漢字表にない漢字で書かれる漢語、右は書きかえである。1字のものは、左の字は右の字に書きかえてさしつかえないことを示す。

(法)	法令用語改正例	国語審議会建議
(物)	學術用語集(物理学編)	文部省編
(土)	≒ (土木工学編)	≒
(鉱)	≒ (採鉱や金学編)	≒
(化)	≒ (化学編)	≒
(船)	≒ (船舶工学編)	≒
(建)	≒ (建築学編)	≒

(医) 医学用語集(第1次選定) 日本医学会用語整理委員会編  
および現在文部省學術用語分科審議会医学用語専門部会で採用のもの。

×……当用漢字表にない漢字

〔編者注〕

- 1 (法)の語例のうち、「法令用語改正要領」(昭和29年11月26日法制局稿

同音の漢字による書きかえ

発第 89 号)で実施が見送られたものには、特に\*印をつけた。  
 2 「學術用語集」については、これを基準として専門用語を統一することが、昭和 29 年 7 月 8 日の次官会議申し合わせとなっている。

愛 闇 安 暗 暗 按 闇	[あ]	欲	逸影唱分夜	向料(註)	謝	丁影	知才	護地(註)	說測義	[お]	憶 測 義 思	[か]	戒
	愛	慈	逸	意	料	裝	英	地	說	憶	奇	希	
	闇	→暗	影	→意	料	跡	才	→英	測	測	→奇	→希	炎
	安	疾	唱	料	丁	→英	護	炎	地	義	希	氣	
	暗	弱	分	謝	影	→炎	→援	護	思	思	希		
	暗	誦	夜	料	丁	→炎	→圍	地	思	思	希		
	按	料		謝	影	→炎	→圍	地	思	思	希		
	闇	料		謝	影	→炎	→圍	地	思	思	希		
		料		謝	影	→炎	→圍	地	思	思	希		
		料		謝	影	→炎	→圍	地	思	思	希		
意 慰 衣 遺 一 陰	[い]	向料(註)	謝	丁影	知才	護地(註)	說測義	[お]	憶 測 義 思	[か]	戒		
	意	料	謝	丁	英	護	地	說	憶	奇	希		
	慰	料	謝	丁	英	護	地	說	憶	奇	希		
	衣	料	謝	丁	英	護	地	說	憶	奇	希		
	遺	料	謝	丁	英	護	地	說	憶	奇	希		
	一	料	謝	丁	英	護	地	說	憶	奇	希		
	陰	料	謝	丁	英	護	地	說	憶	奇	希		
		料	謝	丁	英	護	地	說	憶	奇	希		
		料	謝	丁	英	護	地	說	憶	奇	希		
		料	謝	丁	英	護	地	說	憶	奇	希		
淑 穎 焰 掩 苑	[え]	知才	護地(註)	說測義	[お]	憶 測 義 思	[か]	戒					
	淑	才	地	說	憶	奇	希						
	穎	才	地	說	憶	奇	希						
	焰	才	地	說	憶	奇	希						
	掩	才	地	說	憶	奇	希						
	苑	才	地	說	憶	奇	希						
		才	地	說	憶	奇	希						
		才	地	說	憶	奇	希						
		才	地	說	憶	奇	希						
		才	地	說	憶	奇	希						
聰 脆 恩	[え]	知才	護地(註)	說測義	[お]	憶 測 義 思	[か]	戒					
	聰	才	地	說	憶	奇	希						
	脆	才	地	說	憶	奇	希						
	恩	才	地	說	憶	奇	希						
		才	地	說	憶	奇	希						
		才	地	說	憶	奇	希						
		才	地	說	憶	奇	希						
		才	地	說	憶	奇	希						
		才	地	說	憶	奇	希						
		才	地	說	憶	奇	希						
誠	[え]	知才	護地(註)	說測義	[お]	憶 測 義 思	[か]	戒					
	誠	才	地	說	憶	奇	希						
		才	地	說	憶	奇	希						
		才	地	說	憶	奇	希						
		才	地	說	憶	奇	希						
		才	地	說	憶	奇	希						
		才	地	說	憶	奇	希						
		才	地	說	憶	奇	希						
		才	地	說	憶	奇	希						
		才	地	說	憶	奇	希						
燾 穎 焰 掩 苑	[え]	知才	護地(註)	說測義	[お]	憶 測 義 思	[か]	戒					
	燾	才	地	說	憶	奇	希						
	穎	才	地	說	憶	奇	希						
	焰	才	地	說	憶	奇	希						
	掩	才	地	說	憶	奇	希						
	苑	才	地	說	憶	奇	希						
		才	地	說	憶	奇	希						
		才	地	說	憶	奇	希						
		才	地	說	憶	奇	希						
		才	地	說	憶	奇	希						
燾 穎 焰 掩 苑	[え]	知才	護地(註)	說測義	[お]	憶 測 義 思	[か]	戒					
	燾	才	地	說	憶	奇	希						
	穎	才	地	說	憶	奇	希						
	焰	才	地	說	憶	奇	希						
	掩	才	地	說	憶	奇	希						
	苑	才	地	說	憶	奇	希						
		才	地	說	憶	奇	希						
		才	地	說	憶	奇	希						
		才	地	說	憶	奇	希						
		才	地	說	憶	奇	希						







